

水域類型の指定を行うために必要な基礎情報（案）

目 次

1	庄内川等水域	1
1 - 1	日光川	1
1 - 2	新川下流	6
1 - 3	五条川下流	10
1 - 4	庄内川	14
1 - 5	矢田川	21
2	名古屋市内水域	25
2 - 1	荒子川	25
2 - 2	中川運河	29
2 - 3	堀川	32
2 - 4	山崎川	36
2 - 5	天白川	40
3	境川等水域	45
3 - 1	境川	45
3 - 2	逢妻川	49
3 - 3	猿渡川	55
3 - 4	稗田川	59
3 - 5	高浜川	63
3 - 6	新川	67
3 - 7	長田川	71
3 - 8	半場川	75
3 - 9	朝鮮川	79
3 - 10	阿久比川	83
3 - 11	油ヶ淵	87
4	豊川等水域	91
4 - 1	豊川	91
4 - 2	宇連川	100
4 - 3	豊川放水路	105
4 - 4	音羽川	109
4 - 5	佐奈川	113
4 - 6	梅田川	117
4 - 7	汐川	123
5	天竜川水域	127
5 - 1	大千瀬川	127
	参考：調査地点図	131

1 庄内川等水域

1 - 1 日光川

1 水域の概況

日光川は、その源を愛知県江南市の北部に発し、西流した後、右支川野府川を一宮市内にて合わせ、流向を南に転じ、途中、領内川、福田川等の支川を合わせ伊勢湾に注ぐ河川延長約 41km、流域面積約 299km²の二級河川である。

地形については、高低差約 20m、平均勾配 1/2,000 程度と低平な流域であり、木曾川等の運搬土砂が堆積した沖積低地である。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 1 - 1 のとおりである。

表 1 - 1 環境基準類型指定状況 (日光川)

水域名	区間	類型	環境基準点
日光川	全域	E	北今橋 日光大橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD(75%値)は、全ての地点及び年度で環境基準を達成しており、4 ~ 6 mg/L 程度で推移している (表 1 - 2)。

表 1 - 2 (1) 近年の水質の状況 (日光川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)				pH			
			最小	最大	平均	75%値	基準値	最小	最大	基準値
日光川 [E]	板倉橋	H23	1.8	12	4.3	4.5	10以下	6.7	7.0	6.0 ~ 8.5
		H22	1.7	8.7	3.6	3.9		6.3	7.0	
		H21	2.8	5.6	4.0	4.4		6.4	7.0	
		H20	3.0	16	5.8	5.6		6.2	7.1	
		H19	2.2	18	7.4	10		6.4	7.3	
		平均	2.3	12	5.0	5.7		6.4	7.1	
	北今橋	H23	2.4	11	5.6	7.1		6.8	7.2	
		H22	1.6	10	4.0	3.8		6.3	7.2	
		H21	2.3	7.6	3.9	3.8		6.4	6.9	
		H20	1.8	7.6	4.3	5.8		6.4	7.3	
		H19	2.8	14	5.9	7.0		6.4	7.3	
		平均	2.2	10	4.7	5.5		6.5	7.2	
	日光橋	H23	1.8	6.6	3.5	4.0		6.8	7.2	
		H22	2.2	4.1	3.1	3.6		6.6	7.8	
		H21	1.4	5.3	3.5	4.3		6.5	8.1	
		H20	1.7	4.9	3.3	3.9		6.6	7.5	
		H19	1.5	5.0	3.0	3.4		6.7	7.4	
		平均	1.7	5.2	3.3	3.8		6.6	7.6	
	日光大橋	H23	2.2	7.6	4.1	5.3		6.8	8.0	
		H22	2.4	8.7	4.2	4.0		6.8	8.0	
H21		1.9	6.0	3.5	3.7	6.6	8.0			
H20		1.7	5.9	3.4	3.4	6.7	7.5			
H19		1.9	5.8	3.6	4.3	6.7	7.1			
平均		2.0	6.8	3.8	4.1	6.7	7.7			

表 1 - 2 (2) 近年の水質の状況 (日光川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)			
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
日光川 [E]	板倉橋	H23	3.4	7.1	4.7	2以上	3	16	7	ごみ等の浮遊が認められないこと。	-	-	-	
		H22	3.1	7.5	5.0		3	11	6		-	-		
		H21	3.0	6.5	4.7		2	10	6		-	-		
		H20	2.0	7.4	4.8		3	14	6		-	-		
		H19	1.7	6.4	4.1		3	17	9		-	-		
		平均	2.6	7.0	4.7		3	14	7		-	-		
	北今橋	H23	4.9	6.9	5.8		2	25	8		-	-		
		H22	4.5	7.6	6.1		2	12	5		-	-		
		H21	5.2	6.5	6.0		2	9	6		-	-		
		H20	5.2	7.2	6.1		2	13	5		-	-		
		H19	4.1	6.5	5.5		3	15	6		-	-		
		平均	4.8	6.9	5.9		2	15	6		-	-		
	日光橋	H23	3.8	8.8	6.5		5	18	9		-	-		
		H22	4.1	8.7	6.1		4	22	9		-	-		
		H21	3.5	6.5	4.7		5	12	9		-	-		
		H20	3.5	9.5	5.5		4	11	8		-	-		
		H19	3.3	6.0	4.4		4	11	8		-	-		
		平均	3.6	7.9	5.4		4	15	9		-	-		
	日光大橋	H23	4.8	12	7.6		6	19	11		-	-		
		H22	5.7	13	8.4		6	21	11		-	-		
H21		3.8	7.9	5.7	6	16	10	-	-					
H20		4.8	11	7.0	5	12	8	-	-					
H19		4.3	8.9	6.8	2	11	7	-	-					
平均		4.7	11	7.1	5	16	9	-	-					

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03 mg/L 以下）を北今橋では5年とも上回っていたが、日光大橋では下回っていた（表1-3）。

表1-3 全亜鉛の状況（日光川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	～	最大	平均	N
日光川 [E]	北今橋	H23	0.022	～	0.078	0.042	12
		H22	0.020	～	0.067	0.040	12
		H21	0.024	～	0.10	0.045	12
		H20	0.026	～	0.057	0.044	4
		H19	0.007	～	0.064	0.031	4
		平均	0.020	～	0.073	0.040	-
	日光大橋	H23	0.007	～	0.025	0.014	12
		H22	0.006	～	0.021	0.012	12
		H21	0.008	～	0.043	0.018	12
		H20	0.006	～	0.019	0.012	4
		H19	0.009	～	0.022	0.013	4
		平均	0.007	～	0.026	0.014	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

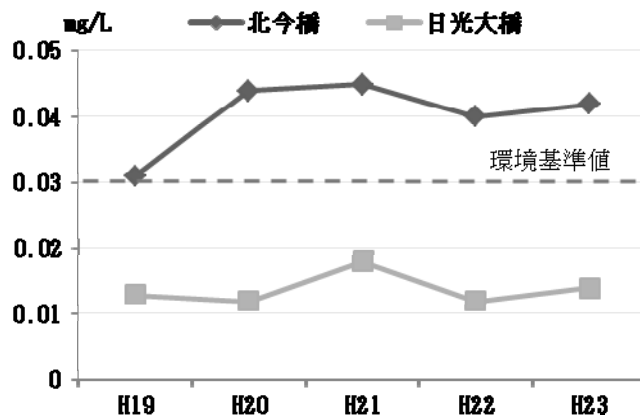


図1-1 全亜鉛の状況（日光川）

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については24～29 程度で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については17～21 程度、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については、8～15 程度である（表1-4）。

表 1 - 4 水温の状況（日光川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
日光川 [E]	板倉橋	H23	25.0	16.7	9.0	12
		H22	25.0	16.5	10.0	12
		H21	23.0	16.6	9.0	12
		H20	26.0	16.6	8.0	12
		H19	23.0	16.9	9.0	12
		平均	24.4	16.7	9.0	-
	北今橋	H23	27.0	20.8	16.0	12
		H22	28.0	20.6	15.0	12
		H21	25.0	20.2	15.0	13
		H20	28.0	20.4	9.0	12
		H19	25.0	21.7	18.0	12
		平均	26.6	20.7	14.6	-
	日光橋	H23	29.4	18.2	8.3	12
		H22	30.0	19.0	8.0	12
		H21	26.0	18.5	8.0	12
		H20	30.4	18.5	6.3	12
		H19	26.1	17.7	8.0	12
		平均	28.4	18.4	7.7	-
	日光大橋	H23	28.5	18.1	6.8	12
		H22	31.0	19.3	8.0	12
		H21	27.0	18.8	8.5	12
		H20	31.5	18.5	6.5	12
		H19	28.1	18.7	8.5	12
		平均	29.2	18.7	7.7	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に泥や砂で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、河口に日光川水閘門が、上流部に落差工が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

日光川	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類（生物B）

日光川	オイカワ、ギンブナ、フナ類、コイ、ドジョウ、ナマズ、トウヨシノボリ、ウナギ、ボラ、スジエビ、テナガエビ
-----	---

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はしていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況に関する情報は得られなかった。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

1 - 2 新川下流

1 水域の概況

新川は、庄内川洗堰を上流端として、新地蔵川、大山川及び合瀬川と合流し、名古屋市と北名古屋市の境界を流れながら鴨田川及び水場川を合わせ、清須市において五条川と合流して、伊勢湾に注ぐ、河川延長約 22km の一級河川である。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 1 - 5 のとおりである。

表 1 - 5 環境基準類型指定状況（新川下流）

水域名	区間	類型	環境基準点
新川下流	新橋より下流	E	萱津橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD(75%値)は、全ての地点及び年度で環境基準を達成しており、2 ~ 5 mg/L 程度で推移している（表 1 - 6）。

表 1 - 6 (1) 近年の水質の状況（新川下流）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH				
			最小	~	最大	平均	75%値	基準値	最小	~	最大	基準値
新川下流 [E]	比良新橋	H23	1.4	~	6.3	3.0	3.7	10以下	6.6	~	7.6	6.0 ~ 8.5
		H22	2.2	~	4.0	2.9	2.9		6.6	~	8.1	
		H21	1.9	~	5.6	3.1	3.5		7.0	~	8.4	
		H20	1.4	~	9.6	4.5	5.4		6.7	~	8.0	
		H19	1.0	~	9.6	3.5	4.5		6.7	~	8.4	
		平均	1.6	~	7.0	3.4	4.0		6.7	~	8.1	
	新川橋	H23	1.2	~	7.4	3.5	3.8		6.8	~	7.2	
		H22	1.7	~	4.8	2.8	3.3		6.6	~	8.0	
		H21	1.5	~	5.7	3.3	3.7		6.5	~	8.0	
		H20	1.7	~	7.8	4.5	5.7		6.6	~	7.7	
		H19	1.3	~	8.2	4.3	6.3		6.9	~	7.4	
		平均	1.5	~	6.8	3.7	4.6		6.7	~	7.7	
	萱津橋	H23	1.2	~	8.9	3.3	3.2		6.8	~	7.2	
		H22	1.4	~	4.7	2.7	3.7		6.6	~	7.9	
		H21	1.7	~	5.3	3.3	3.9		6.5	~	8.1	
		H20	1.5	~	5.8	3.6	4.6		6.8	~	7.0	
		H19	1.4	~	6.9	3.5	4.2		6.7	~	7.1	
		平均	1.4	~	6.3	3.3	3.9		6.7	~	7.5	
	日の出橋	H23	0.7	~	3.7	1.5	1.9		7.0	~	8.0	
		H22	0.9	~	4.3	1.7	1.8		6.9	~	7.9	
		H21	1.1	~	2.7	1.7	1.9		6.8	~	7.9	
		H20	1.4	~	3.8	2.4	2.6		7.0	~	7.6	
		H19	1.2	~	3.8	2.2	2.6		6.8	~	7.3	
		平均	1.1	~	3.7	1.9	2.2		6.9	~	7.7	

表 1 - 6 (2) 近年の水質の状況 (新川下流)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)			
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
新川下流 [E]	比良新橋	H23	7.0	~	12	8.3	2以上	3	~	10	6	-	-	-
		H22	7.2	~	11	9.0		1	~	18	5	-	-	
		H21	6.9	~	9.3	8.3		2	~	15	6	-	-	
		H20	7.0	~	11	9.1		2	~	35	7	-	-	
		H19	6.9	~	13	8.6		3	~	37	10	-	-	
		平均	7.0	~	11	8.7		2	~	23	7	-	-	
	新川橋	H23	3.5	~	6.3	4.8		5	~	18	9	-	-	
		H22	4.2	~	7.6	5.3		3	~	16	8	-	-	
		H21	3.4	~	6.2	4.9		6	~	21	9	-	-	
		H20	2.5	~	6.4	4.8		3	~	20	9	-	-	
		H19	1.7	~	5.8	3.8		4	~	18	10	-	-	
	平均	3.1	~	6.5	4.7	4		~	19	9	-	-		
	萱津橋	H23	2.9	~	6.9	5.2		5	~	35	11	-	-	
		H22	3.7	~	6.9	5.2		3	~	15	8	-	-	
		H21	3.0	~	6.2	5.1		4	~	24	9	-	-	
		H20	2.7	~	7.4	4.8		3	~	15	8	-	-	
		H19	2.2	~	6.8	4.5		2	~	15	8	-	-	
	平均	2.9	~	6.8	5.0	3		~	21	9	-	-		
	日の出橋	H23	3.3	~	9.2	5.4		4	~	35	11	-	-	
		H22	4.3	~	9.7	6.2		2	~	30	9	-	-	
		H21	4.1	~	8.4	5.7		2	~	35	10	-	-	
		H20	3.5	~	8.5	5.7		4	~	35	11	-	-	
		H19	2.2	~	6.7	4.4		3	~	14	7	-	-	
	平均	3.5	~	8.5	5.5	3		~	30	10	-	-		

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を萱津橋では平成 23 年度に上回っていたが、それ以外は下回っていた (表 1 - 7)。

表 1 - 7 全亜鉛の状況 (新川下流)

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	最大	平均	N	
新川下流 [E]	萱津橋	H23	0.016	~	0.059	0.031	12
		H22	0.014	~	0.037	0.023	12
		H21	0.016	~	0.050	0.030	12
		H20	0.022	~	0.038	0.030	4
		H19	0.022	~	0.037	0.030	4
		平均	0.018	~	0.044	0.029	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

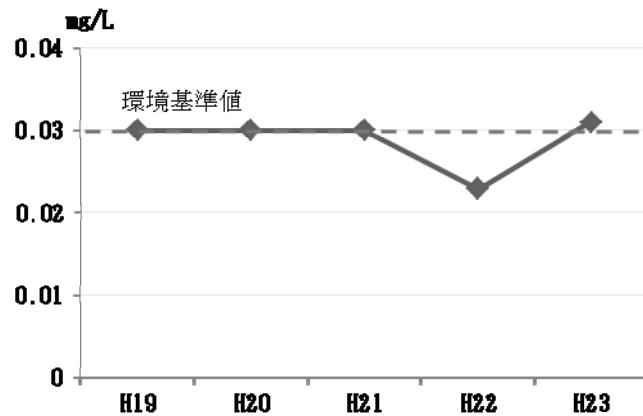


図 1 - 2 全亜鉛の状況 (新川下流)

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 27~29 程度で、各年度の平均水温の最近 5 年間の平均値については 17~19 程度、各年度の最低水温の最近 5 年間の平均値については、7~8 程度である (表 1 - 8)。

表 1 - 8 水温の状況 (新川下流)

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
新川下流 [E]	比良新橋	H23	25.3	16.3	6.2	12
		H22	28.0	16.8	7.5	12
		H21	25.0	16.7	7.0	12
		H20	29.7	18.9	6.7	12
		H19	24.9	17.1	8.3	12
		平均	26.6	17.1	7.1	-
	新川橋	H23	27.0	17.7	7.4	12
		H22	29.0	18.5	8.5	12
		H21	25.5	18.2	7.5	12
		H20	29.0	18.8	7.8	12
		H19	26.1	17.5	8.8	12
		平均	27.3	18.1	8.0	-
	萱津橋	H23	26.8	17.7	7.3	12
		H22	28.5	18.5	8.5	12
		H21	26.0	18.4	7.0	12
		H20	29.2	19.2	8.0	12
		H19	27.8	19.0	10.0	12
		平均	27.7	18.5	8.2	-
	日の出橋	H23	28.7	17.8	7.7	12
		H22	29.1	18.7	8.0	12
		H21	27.0	18.1	8.8	12
		H20	28.1	18.8	9.6	12
		H19	29.6	18.6	7.2	12
		平均	28.5	18.4	8.3	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、上流部では主に砂礫で、下流部では主に泥で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、大きな河川構造物は設置されていない。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

新川下流	確認されていない
------	----------

温水性の魚介類（生物B）

新川下流	ウグイ、オイカワ、ギンブナ、フナ類、コイ、ナマズ、トウヨシノボリ、ウナギ、ボラ、スジエビ、テナガエビ、モクズガニ
------	--

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の方流はしていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況に関する情報は得られなかった。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

1 - 3 五条川下流

1 水域の概況

五条川は、犬山市西片草地先に源を發し、合瀬川と平面交差し、巾下川、青木川を合わせて新川に合流している河川延長約 30km の一級河川である。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 1 - 9 のとおりである。

表 1 - 9 環境基準類型指定状況 (五条川下流)

水域名	区間	類型	環境基準点
五条川下流	待合橋より下流	E	待合橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD(75%値)は、全ての地点及び年度で環境基準を達成しており、3 ~ 5 mg/L 程度で推移している (表 1 - 10)。

表 1 - 10 (1) 近年の水質の状況 (五条川下流)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH				
			最小	~	最大	平均	75%値	基準値	最小	~	最大	基準値
五条川 下流 [E]	待合橋	H23	0.9	~	3.5	2.0	2.7	10以下	6.7	~	7.2	6.0 ~ 8.5
		H22	1.3	~	3.0	1.9	2.0		6.5	~	7.8	
		H21	1.1	~	4.1	2.5	3.4		6.3	~	8.4	
		H20	1.3	~	8.8	2.8	2.7		6.8	~	7.0	
		H19	1.1	~	5.2	2.5	3.4		6.8	~	7.2	
		平均	1.1	~	4.9	2.3	2.8		6.6	~	7.5	
	稻春橋	H23	1.4	~	7.9	3.7	5.1		6.7	~	7.2	
		H22	1.6	~	3.7	2.3	2.7		6.6	~	7.7	
		H21	1.1	~	5.4	3.7	5.1		6.5	~	8.0	
		H20	0.9	~	11	3.7	4.7		6.6	~	7.3	
		H19	0.9	~	7.3	4.0	6.3		6.9	~	7.5	
		平均	1.2	~	7.1	3.5	4.8		6.7	~	7.5	

表 1 - 1 0 (2) 近年の水質の状況 (五条川下流)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)			SS (mg/L)			大腸菌群数 (MPN/100mL)		
			最小 ~ 最大	平均	基準値	最小 ~ 最大	平均	基準値	最小 ~ 最大	平均	基準値
五条川 下流 [E]	待合橋	H23	6.7 ~ 9.6	8.2	2以上	2 ~ 14	5	ごみ等 の浮遊 が認め られな いこ と。	-	-	-
		H22	7.6 ~ 10	8.6		1 ~ 9	4		-	-	
		H21	7.3 ~ 9.5	8.2		2 ~ 11	5		-	-	
		H20	7.9 ~ 10	9.1		1 ~ 30	6		-	-	
		H19	8.4 ~ 10	9.4		1 ~ 15	5		-	-	
		平均	7.6 ~ 9.8	8.7		1 ~ 16	5		-	-	
	稲春橋	H23	5.5 ~ 7.8	6.5		2 ~ 14	6		-	-	
		H22	5.1 ~ 8.2	6.8		2 ~ 10	4		-	-	
		H21	5.2 ~ 8.1	6.6		2 ~ 22	8		-	-	
		H20	6.0 ~ 8.6	6.7		1 ~ 55	8		-	-	
		H19	5.1 ~ 7.9	6.5		3 ~ 18	8		-	-	
		平均	5.4 ~ 8.1	6.6		2 ~ 24	7		-	-	

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を待合橋では5年とも上回っていた (表 1 - 1 1)。

表 1 - 1 1 全亜鉛の状況 (五条川下流)

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)			
			最小 ~ 最大	平均	N	
五条川 下流 [E]	待合橋	H23	0.016 ~ 0.10	0.053	12	
		H22	0.013 ~ 0.084	0.042	12	
		H21	0.017 ~ 0.12	0.050	12	
		H20	0.028 ~ 0.10	0.057	4	
		H19	0.035 ~ 0.075	0.057	4	
		平均	0.022 ~ 0.096	0.052	-	

備考 「N」は、測定回数を示す。

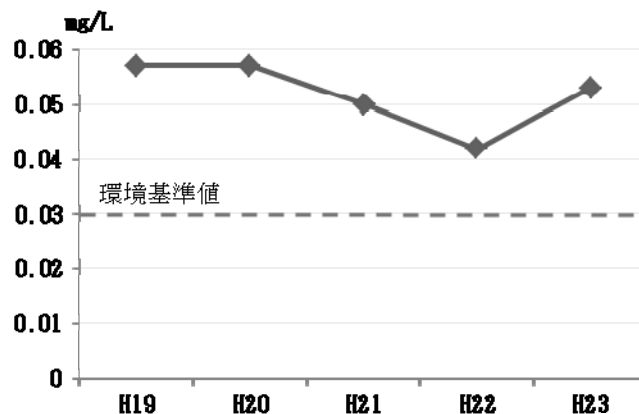


図 1 - 3 全亜鉛の状況 (五条川下流)

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については27程度で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については19程度、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については10~12程度である(表1-12)。

表1-12 水温の状況(五条川下流)

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温()			
			最高	平均	最小	N
五条川 下流 [E]	待合橋	H23	25.5	18.0	10.5	12
		H22	27.0	18.8	11.0	12
		H21	25.5	18.9	10.0	12
		H20	28.6	20.5	13.5	12
		H19	26.3	20.4	13.8	12
		平均	26.6	19.3	11.8	-
		稲春橋	H23	27.6	18.2	9.5
	H22	29.0	18.8	10.0	12	
	H21	26.0	18.6	9.5	12	
	H20	28.8	19.9	9.9	12	
	H19	25.0	18.2	10.5	12	
	平均	27.3	18.7	9.9	-	

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、上流部では主に礫や石で、下流部では砂や礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、下流部に法界門堰、下之郷堰が、上流部に取水堰、合瀬川(木津用水)との分流堰が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類(生物A)

五条川下流	確認されていない
-------	----------

温水性の魚介類(生物B)

五条川下流	ウグイ、オイカワ、ギンブナ、フナ類、コイ、ドジョウ、ナマズ、ウナギ、ボラ、スジエビ、テナガエビ、モクズガニ
-------	---

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所
魚類の放流はしていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果
魚類の生息状況に関する情報は得られなかった。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

1 - 4 庄内川

1 水域の概況

庄内川は、愛知県北西部の太平洋側に位置し、その源を岐阜県恵那市の夕立山（標高 727m）に発し、岐阜県内では土岐川と呼ばれ、瑞浪市で小里川、土岐市で妻木川、多治見市で笠原川等の支川を合わせ、岐阜愛知県境に位置する玉野溪谷を抜け、春日井市高蔵寺で濃尾平野に出て、その後、矢田川等の支川を合わせて名古屋市の北西部を流下し、伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長 96km、流域面積 1,010km² の一級河川である。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 1 - 13 のとおりである。

表 1 - 13 環境基準類型指定状況（庄内川）

水域名	区間	類型	環境基準点
庄内川中流（1）	水野川合流点より上流	B	城嶺橋
庄内川中流（2）	水野川合流点から水分橋まで	D	大留橋 水分橋
庄内川下流	水分橋より下流	D	枇杷島橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD（75%値）は、平成 19 年度の水分橋を除いた地点及び年度で環境基準を達成しており、1～6 mg/L 程度で推移している（表 1 - 14）。

表1 - 14(1) 近年の水質の状況(庄内川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)				基準値	pH		基準値
			最小	最大	平均	75%値		最小	最大	
庄内川 中流(1) [B]	城嶺橋	H23	0.5 ~	1.8	1.1	1.3	3以下	6.9 ~	7.5	6.5 ~ 8.5
		H22	0.8 ~	2.7	1.6	1.9		7.2 ~	8.0	
		H21	< 0.5 ~	1.4	1.0	1.3		7.2 ~	8.4	
		H20	< 0.5 ~	1.4	0.9	1.1		7.3 ~	8.3	
		H19	0.7 ~	1.7	1.2	1.4		7.1 ~	8.5	
		平均	0.6 ~	1.8	1.2	1.4		7.1 ~	8.1	
庄内川 中流(2) [D]	大留橋	H23	0.8 ~	2.1	1.3	1.5	8以下	7.0 ~	7.6	6.0 ~ 8.5
		H22	0.6 ~	3.4	2.2	2.4		7.1 ~	8.2	
		H21	0.8 ~	2.5	1.2	1.3		7.3 ~	8.6	
		H20	< 0.5 ~	1.8	0.9	1.0		7.4 ~	8.5	
		H19	0.8 ~	2.4	1.5	1.7		7.2 ~	8.9	
		平均	0.7 ~	2.4	1.4	1.6		7.2 ~	8.4	
	水分橋	H23	1.0 ~	8.2	3.2	3.7		6.7 ~	7.5	
		H22	1.7 ~	9.7	5.1	7.6		6.6 ~	8.3	
		H21	1.8 ~	10	4.8	5.4		6.8 ~	7.7	
		H20	0.9 ~	5.2	3.1	3.8		6.9 ~	7.5	
		H19	1.2 ~	18	7.5	9.5		6.8 ~	7.6	
		平均	1.3 ~	10	4.7	6.0		6.8 ~	7.7	
庄内川 下流 [D]	枇杷島橋	H23	0.9 ~	4.7	2.6	3.1	8以下	6.9 ~	7.7	6.0 ~ 8.5
		H22	1.9 ~	5.9	3.4	3.7		6.7 ~	8.1	
		H21	1.6 ~	8.7	3.2	3.4		7.0 ~	7.8	
		H20	0.8 ~	5.0	2.6	3.0		7.0 ~	8.2	
		H19	1.0 ~	6.9	4.0	5.6		7.1 ~	7.6	
		平均	1.2 ~	6.2	3.2	3.8		6.9 ~	7.9	
	庄内 新川橋	H23	1.2 ~	4.1	2.0	2.1		7.0 ~	7.5	
		H22	2.0 ~	7.3	3.9	5.5		7.0 ~	7.3	
		H21	1.5 ~	3.6	2.1	2.3		6.9 ~	7.3	
		H20	0.9 ~	5.1	1.9	1.8		7.2 ~	7.7	
		H19	1.5 ~	3.1	2.3	2.5		7.0 ~	7.3	
		平均	1.4 ~	4.6	2.4	2.8		7.0 ~	7.4	

表 1 - 1 4 (2) 近年の水質の状況 (庄内川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)						
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値			
庄内川 中流(1) [B]	城嶺橋	H23	8.3	~	13	11	5以上	<1	~	6	3	25以下	790	~	54000	12000	5000 以下
		H22	8.0	~	13	10		<1	~	10	4		240	~	49000	9200	
		H21	8.6	~	13	11		<1	~	6	2		240	~	24000	4600	
		H20	8.2	~	14	10		1	~	6	3		330	~	7900	3900	
		H19	8.4	~	13	11		<1	~	4	2		330	~	17000	4700	
		平均	8.3	~	13	11		1	~	6	3		386	~	30380	6880	
庄内川 中流(2) [D]	大留橋	H23	8.4	~	12	10	2以上	<1	~	7	3	100 以下	-	-	-		
		H22	8.4	~	13	10		2	~	9	4		-	-			
		H21	9.4	~	14	11		1	~	11	5		-	-			
		H20	9.2	~	14	11		3	~	7	4		-	-			
		H19	9.1	~	13	11		1	~	14	4		-	-			
		平均	8.9	~	13	11		2	~	10	4		-	-			
	水分橋	H23	4.2	~	11	8.8		3	~	21	8		-	-			
		H22	4.0	~	10	7.7		2	~	24	10		-	-			
		H21	3.9	~	11	8.6		4	~	19	10		-	-			
		H20	4.6	~	11	8.7		4	~	11	7		-	-			
H19	3.8	~	11	7.5	5	~	22	9	-	-							
平均	4.1	~	11	8.3	4	~	19	9	-	-							
庄内川 下流 [D]	枇杷島橋	H23	6.8	~	11	9.1	2以上	3	~	13	6	100 以下	-	-	-		
		H22	5.1	~	11	8.7		2	~	13	6		-	-			
		H21	6.2	~	12	9.6		2	~	15	6		-	-			
		H20	7.2	~	11	9.4		3	~	23	6		-	-			
		H19	7.0	~	12	9.4		3	~	8	5		-	-			
		平均	6.5	~	11	9.2		3	~	14	6		-	-			
	庄内 新川橋	H23	5.9	~	9.6	7.7		2	~	21	9		-	-			
		H22	3.6	~	8.7	6.8		6	~	40	11		-	-			
		H21	4.9	~	10	6.9		4	~	11	6		-	-			
		H20	6.1	~	9.8	7.8		5	~	17	10		-	-			
H19	3.6	~	8.6	6.1	2	~	12	6	-	-							
平均	4.8	~	9.3	7.1	4	~	20	8	-	-							

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を水分橋では平成 19 年度及び 20 年度、枇杷島橋では平成 20 年度に上回っていたが、それ以外は下回っていた (表 1 - 1 5)。

表 1 - 1 5 全亜鉛の状況（庄内川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	～	最大	平均	N
庄内川 中流(1) [B]	城嶺橋	H23	0.004	～	0.014	0.008	12
		H22	0.006	～	0.018	0.013	12
		H21	0.003	～	0.010	0.006	12
		H20	0.008	～	0.018	0.013	12
		H19	0.003	～	0.018	0.009	12
		平均	0.005	～	0.016	0.010	-
	大留橋	H23	0.004	～	0.014	0.009	12
		H22	0.007	～	0.019	0.013	12
		H21	0.003	～	0.012	0.007	12
		H20	0.008	～	0.015	0.011	12
		H19	0.002	～	0.015	0.008	12
		平均	0.005	～	0.015	0.010	-
	水分橋	H23	0.005	～	0.028	0.014	12
		H22	0.006	～	0.044	0.019	12
		H21	0.006	～	0.021	0.012	12
		H20	0.011	～	0.12	0.051	12
		H19	0.011	～	0.11	0.047	12
		平均	0.008	～	0.065	0.029	-
庄内川 下流 [D]	枇杷島橋	H23	0.003	～	0.025	0.014	12
		H22	0.013	～	0.028	0.019	12
		H21	0.004	～	0.019	0.012	12
		H20	0.016	～	0.061	0.038	12
		H19	0.011	～	0.10	0.027	12
		平均	0.009	～	0.047	0.022	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

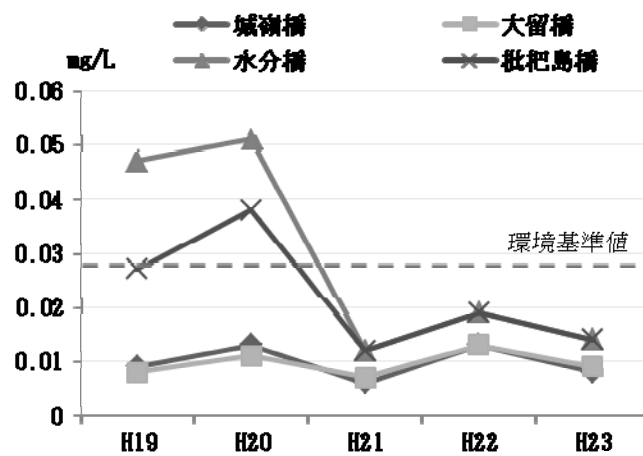


図 1 - 4 全亜鉛の状況（庄内川）

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については28～30程度で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については16～21程度、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については、4～10程度である(表1-16)。

表1-16 水温の状況(庄内川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温()			
			最高	平均	最小	N
庄内川 中流(1) [B]	城嶺橋	H23	28.5	16.1	4.8	12
		H22	27.6	15.3	2.2	12
		H21	25.8	15.3	4.0	12
		H20	30.2	17.8	3.7	12
		H19	26.3	15.8	3.6	12
		平均	27.7	16.1	3.7	-
庄内川 中流(2) [D]	大留橋	H23	28.5	16.6	6.8	12
		H22	28.5	16.8	4.5	12
		H21	27.0	16.1	3.8	12
		H20	29.9	18.0	4.7	12
		H19	27.5	16.6	4.7	12
		平均	28.3	16.8	4.9	-
	水分橋	H23	28.8	19.3	10.3	24
		H22	29.5	20.7	9.6	24
		H21	29.4	20.4	11.9	24
		H20	31.9	20.4	10.5	24
		H19	29.4	21.9	8.1	24
		平均	29.8	20.6	10.1	-
庄内川 下流 [D]	枇杷島橋	H23	29.8	18.5	8.4	24
		H22	29.2	19.0	8.6	24
		H21	29.2	19.2	8.7	24
		H20	30.5	20.0	8.5	24
		H19	29.3	19.2	7.7	24
		平均	29.6	19.2	8.3	-
	庄内 新川橋	H23	30.0	17.7	8.0	12
		H22	29.5	18.3	8.4	12
		H21	29.6	18.4	9.1	12
		H20	30.0	19.9	9.1	12
		H19	27.8	18.1	8.5	12
		平均	29.4	18.5	8.6	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に中流部の上流では岩盤石で、下流では主に石や礫で、下流部では砂礫や泥で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、多くの堰や床止めなどが設置され、魚道も設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

庄内川中流(1)	確認されていない
庄内川中流(2)	サツキマス
庄内川下流	確認されていない

温水性の魚介類（生物B）

庄内川中流(1)	オイカワ、コイ、ドジョウ、ナマズ、スジエビ、モクズガニ
庄内川中流(2)	オイカワ、ギンブナ、フナ類、コイ、ナマズ、ウナギ、スジエビ、テナガエビ、モクズガニ
庄内川下流	ウグイ、シラウオ、オイカワ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、コイ、ナマズ、トウヨシノボリ、ウナギ、ボラ、スジエビ、テナガエビ、モクズガニ、ヤマトシジミ

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない（愛知県内）。

魚類放流場所

魚類は放流されていない（愛知県内）。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、土岐川漁業協同組合、専門家からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・庄内川にもアマゴが生息していると思うが、調査で把握できるような密度では生息していないので、一般的には生息していないというのが妥当である。・土岐川（庄内川上流・岐阜県）ではアマゴが一部自然産卵しているかもしれないが、正確には分からない。 |
|---|

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。玉野堰堤付近に愛知県漁業調整規則に基づく禁漁区が設定されている。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

なお、魚介類の産卵場としては、既存資料において、岐阜県境より下流全域でコイ及びフナ、アユの産卵場、枇杷島床止から小田井床止周辺及び志段味橋上流付近でアユの産卵場、八ヶ村用水堰下流及び神明上条用水堰下流、玉野町地先周辺でオイカワの産卵場の情報がある。

1 - 5 矢田川

1 水域の概況

愛知県瀬戸市の海上の森を水源とする海上川と、猿投山を水源とする赤津川が合流し、矢田川の源流となる。源流部の山口川は瀬戸川と合流した地点から矢田川と名前を変え、概ね西方へ流下し、支流の香流川や瀬戸川などを合わせ、名古屋市西区で庄内川に合流する、全長約 23km、流域面積 108km² の一級河川である。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 1 - 17 のとおりである。

表 1 - 17 環境基準類型指定状況 (矢田川)

水域名	区間	類型	環境基準点
矢田川上流	大森橋より上流	D	大森橋
矢田川下流	大森橋より下流	D	天神橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD (75%値) は、平成 19 年度の宮下橋を除き環境基準を達成しており、4 ~ 7 mg/L 程度で推移している。(表 1 - 18)

表 1 - 18 (1) 近年の水質の状況 (矢田川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH				
			最小	~	最大	平均	75%値	基準値	最小	~	最大	基準値
矢田川 上流 [D]	宮下橋	H23	2.8	~	12	6.3	6.8	8以下	7.2	~	7.9	6.0 ~ 8.5
		H22	2.6	~	12	5.0	4.7		7.0	~	8.2	
		H21	4.8	~	11	7.0	6.9		7.0	~	8.2	
		H20	4.0	~	11	6.0	6.4		7.0	~	8.1	
		H19	3.1	~	20	8.6	9.5		7.0	~	7.7	
		平均	3.5	~	13	6.6	6.9		7.0	~	8.0	
	大森橋	H23	1.9	~	14	5.9	6.2		7.5	~	7.7	
		H22	2.5	~	11	5.2	6.4		7.3	~	7.7	
		H21	3.1	~	12	6.2	6.4		7.4	~	7.8	
		H20	2.0	~	12	5.8	6.4		7.4	~	7.7	
		H19	2.8	~	14	7.3	8.0		7.3	~	8.0	
		平均	2.5	~	13	6.1	6.7		7.4	~	7.8	
矢田川 下流 [D]	天神橋	H23	1.8	~	6.6	3.6	4.4	7.0	~	8.9		
		H22	1.7	~	9.1	4.2	5.1	7.2	~	9.3		
		H21	1.7	~	6.7	3.2	3.2	7.1	~	9.4		
		H20	< 0.5	~	5.3	1.9	2.2	7.4	~	9.8		
		H19	1.7	~	7.0	3.4	4.2	7.3	~	9.4		
		平均	1.5	~	6.9	3.3	3.8	7.2	~	9.4		

表 1 - 1 8 (2) 近年の水質の状況 (矢田川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)		
			最小	~ 最大	平均	基準値	最小	~ 最大	平均	基準値	最小	~ 最大	平均
矢田川 上流 [D]	宮下橋	H23	6.0	~ 10	8.8	2以上	3	~ 66	12	100 以下	-	-	-
		H22	7.1	~ 11	9.1		3	~ 11	6		-	-	
		H21	7.6	~ 10	8.9		3	~ 10	6		-	-	
		H20	7.5	~ 10	9.1		3	~ 15	8		-	-	
		H19	4.9	~ 10	8.6		6	~ 35	11		-	-	
	平均	6.6	~ 10	8.9	4		~ 27	9	-		-		
	大森橋	H23	7.6	~ 12	9.5		2	~ 12	7		-	-	
		H22	8.3	~ 12	9.8		2	~ 16	7		-	-	
		H21	8.0	~ 11	9.6		5	~ 16	8		-	-	
		H20	7.5	~ 11	9.5		4	~ 34	11		-	-	
H19		7.5	~ 11	9.2	3	~ 19	8	-	-				
平均	7.8	~ 11	9.5	3	~ 19	8	-	-					
矢田川 下流 [D]	天神橋	H23	7.7	~ 12	9.5	2以上	1	~ 8	4	100 以下	-	-	-
		H22	6.9	~ 13	9.5		1	~ 15	5		-	-	
		H21	7.5	~ 15	9.7		<1	~ 37	5		-	-	
		H20	8.2	~ 13	10		2	~ 17	6		-	-	
		H19	7.4	~ 16	10		1	~ 9	4		-	-	
		平均	7.5	~ 14	9.7		1	~ 17	5		-	-	

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を大森橋では平成 23 年度に上回っていたが、それ以外は下回っていた (表 1 - 1 9)。

表 1 - 1 9 全亜鉛の状況 (矢田川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)			
			最小	~ 最大	平均	N
矢田川 上流 [D]	大森橋	H23	0.017	~ 0.057	0.033	12
		H22	0.010	~ 0.095	0.026	12
		H21	0.009	~ 0.11	0.027	12
		H20	0.004	~ 0.017	0.009	4
		H19	0.002	~ 0.016	0.008	4
		平均	0.008	~ 0.059	0.021	-
矢田川 下流 [D]	天神橋	H23	0.009	~ 0.029	0.019	12
		H22	0.013	~ 0.037	0.025	12
		H21	0.006	~ 0.020	0.013	12
		H20	0.013	~ 0.048	0.025	12
		H19	0.006	~ 0.025	0.014	12
		平均	0.009	~ 0.032	0.019	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

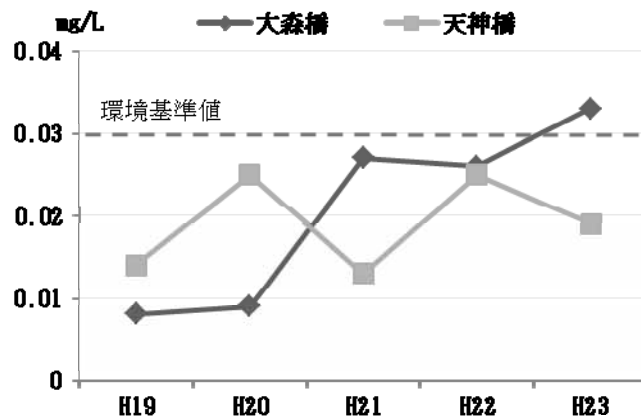


図 1 - 5 全亜鉛の状況 (矢田川)

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 28~30 程度で、各年度の平均水温の最近 5 年間の平均値については 18~21 程度、各年度の最低水温の最近 5 年間の平均値については 7~12 程度である (表 1 - 20)。

表 1 - 20 水温の状況 (矢田川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
矢田川 上流 [D]	宮下橋	H23	28.8	20.2	11.8	12
		H22	32.0	20.8	11.0	12
		H21	28.0	20.5	10.5	12
		H20	32.8	21.6	13.6	12
		H19	29.0	21.1	12.3	12
		平均	30.1	20.8	11.8	-
	大森橋	H23	25.4	16.9	7.8	12
		H22	29.5	18.0	7.9	12
		H21	27.8	18.2	8.5	12
		H20	27.1	17.6	8.1	12
		H19	28.1	18.8	8.5	12
		平均	27.6	17.9	8.2	-
矢田川 下流 [D]	天神橋	H23	30.0	18.1	7.3	24
		H22	29.0	18.0	6.5	24
		H21	29.7	18.8	6.4	24
		H20	31.6	20.5	9.2	24
		H19	28.6	18.4	6.6	24
		平均	29.8	18.8	7.2	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に礫や砂で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、多くの落差工や護岸工、床止、取水堰が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

矢田川上流	確認されていない
矢田川下流	確認されていない

温水性の魚介類（生物B）

矢田川上流	オイカワ、コイ、ドジョウ、ナマズ、モクズガニ
矢田川下流	オイカワ、ギンブナ、フナ類、コイ、ドジョウ、ナマズ、トウヨシノボリ、ウナギ、スジエビ、モクズガニ

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はしていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況に関する情報は得られなかった。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

2 名古屋市内水域

2 - 1 荒子川

1 水域の概況

荒子川は、名古屋市中川区北端部を源流とし、中川区、港区を南下して名古屋港へと注ぐ延長約 6.7km、流域面積約 6.5km²の普通河川である。流域の地盤沈下のため自然流下で名古屋港に排水することができなくなり、河口部を締め切って荒子川ポンプ所から名古屋港にポンプ排水している。荒子川の流域は、住宅地や工業地帯として市街化されているが、下水道は合流式で 100%整備されているため、一部の工場排水を除き、排水は荒子川へは放流されていない。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 2 - 1 のとおりである。

表 2 - 1 環境基準類型指定状況 (荒子川)

水域名	区間	類型	環境基準点
荒子川	全域	E	荒子川ポンプ所

(2) 水質汚濁の状況

BOD (75%値) は、全ての調査地点で環境基準を達成しており、4 ~ 7 mg/L 程度で推移している (表 2 - 2)。

表 2 - 2 (1) 近年の水質の状況 (荒子川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH				
			最小	~	最大	平均	75%値	基準値	最小	~	最大	基準値
荒子川 [E]	境橋	H23	< 0.5	~	3.9	1.7	2.3	10以下	7.1	~	7.9	6.0 ~ 8.5
		H22	1.1	~	5.9	2.2	2.3		6.8	~	7.8	
		H21	0.9	~	4.9	2.0	2.2		6.9	~	7.3	
		H20	1.5	~	14	4.5	6.2		7.0	~	7.4	
		H19	1.5	~	8.4	4.2	5.7		6.9	~	7.2	
		平均	1.1	~	7.4	2.9	3.7		6.9	~	7.5	
	荒子川 ポンプ所	H23	0.5	~	10	4.6	5.6		7.1	~	9.6	
		H22	2.2	~	8.1	5.2	6.0		7.4	~	9.8	
		H21	1.9	~	12	6.2	7.0		7.5	~	9.6	
		H20	3.9	~	8.0	6.0	7.4		7.7	~	9.4	
		H19	3.4	~	12	7.6	9.6		7.7	~	9.6	
		平均	2.4	~	10	5.9	7.1		7.5	~	9.6	

備考 下線付きの地点名は、名古屋市環境保全条例に基づく調査地点を示す。

表 2 - 2 (2)近年の水質の状況 (荒子川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)					
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値		
荒子川 [E]	境橋	H23	4.8	~	9.1	9.0	<1	~	9	4	<2	~	1100	266		
		H22	3.7	~	9.6	6.9	<1	~	10	3	<2	~	2800	360		
		H21	5.0	~	9.3	7.2	<1	~	7	2	<2	~	4900	530		
		H20	4.3	~	9.8	7.0	<1	~	7	3	<2	~	520	64		
		H19	4.7	~	8.7	6.2	<1	~	10	3	<5	~	1000	240		
		平均	4.5	~	9.3	7.3	<1	~	9	3	<5	~	2064	292		
	荒子川 ポンプ所	H23	6.5	~	20	13	6	~	29	12	-	-	-	-		
		H22	8.5	~	23	12	6	~	21	11	-	-	-	-		
		H21	7.2	~	20	12	2	~	18	10	-	-	-	-		
		H20	9.2	~	18	12	6	~	21	10	-	-	-	-		
		H19	8.6	~	23	15	5	~	31	13	-	-	-	-		
		平均	8.0	~	21	13	5	~	24	11	-	-	-	-		
		2以上											ごみ等の浮遊が認められないこと。			

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

下線付きの地点名は、名古屋市環境保全条例に基づく調査地点を示す。

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を下回っていた (表 2 - 3)。

表 2 - 3 全亜鉛の状況 (荒子川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	最大	平均	N	
荒子川 [E]	荒子川 ポンプ所	H23	0.007	~	0.025	0.015	12
		H22	0.005	~	0.037	0.014	12
		H21	0.003	~	0.022	0.012	12
		H20	0.002	~	0.004	0.003	4
		H19	< 0.001	~	0.005	0.003	4
		平均	0.004	~	0.019	0.009	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

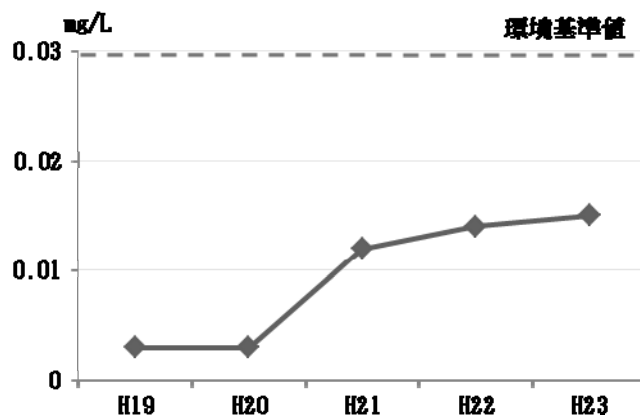


図 2 - 1 全亜鉛の状況 (荒子川)

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については29~31程度で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については19~22程度、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については、6~14である(表2-4)。

表2-4 水温の状況(荒子川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
荒子川 [E]	境橋	H23	27.3	21.6	17.0	12
		H22	29.5	21.6	12.0	12
		H21	28.2	21.0	11.5	12
		H20	28.1	21.8	16.1	12
		H19	30.2	21.8	13.0	12
		平均	28.7	21.6	13.9	-
		荒子川 ポンプ所	H23	31.1	18.8	6.0
	H22	31.5	18.7	6.2	12	
	H21	29.3	18.4	6.2	12	
	H20	30.8	18.8	6.8	12	
	H19	29.7	18.5	6.0	12	
	平均	30.5	18.6	6.2	-	

備考 「N」は、測定回数を示す。

下線付きの地点名は、名古屋市環境保全条例に基づく調査地点を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に上流部では石で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、河口部に荒子川ポンプ所が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類(生物A)

荒子川	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類(生物B)

荒子川	オイカワ、トウヨシノボリ、スジエビ、テナガエビ
-----	-------------------------

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類は放流されていない。

学識者へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、学識者からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・名古屋市内水域では冷水性魚類は生息していない。
- ・名古屋市内水域では、オイカワ、フナ、コイが多く生息しているが、フナは近年減少している。
- ・名古屋市内水域では、河川改修等により産卵適地が減少していると思う。河川内に産卵に適した構造物や水草がない。
- ・荒子川で確認される魚類のほとんどはチカダイ（ナイルティラピア）である。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

2 - 2 中川運河

1 水域の概況

中川運河の前身は中川であった。中川は長さ 10.5km、幅 8.2m から 71.9m で、水郷の景観であったと言われる。中川運河は、潮の干満による影響を受けない開門式運河として 1926 年に開削に着手し、1932 年に全線にわたり開通した。流域面積は 10.21km²、幹線の長さ 6.4km、幅 64m から 91m、支線は長さ 1.8km、幅 36m の広大な水面を持つ運河である。

中川運河の流域のうち、北部はビルの建ち並ぶ名古屋駅前帯を始め、高度に発達した市街地であり、南部は小規模な工場・倉庫が建ち並び、市街化は概ね完了している。流域の下水道は、合流式で 100% 整備されている。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 2 - 5 のとおりである。

表 2 - 5 環境基準類型指定状況 (中川運河)

水域名	区間	類型	環境基準点
中川運河	全域	E	東海橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD (75%値) は、平成 23 年度に環境基準 (3 mg/L) を達成しておらず、9 mg/L 程度で推移している (表 2 - 6)。

表 2 - 6 (1) 近年の水質の状況 (中川運河)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)				基準値	pH		
			最小	最大	平均	75%値		最小	最大	基準値
中川運河 [E]	東海橋	H23	2.1	16	8.0	11	10以下	7.5	9.1	6.0 ~ 8.5
		H22	3.0	18	7.9	8.9		8.0	9.3	
		H21	2.7	13	6.1	6.6		7.9	9.1	
		H20	1.8	10	5.3	8.6		7.7	8.9	
		H19	1.5	9.2	5.8	8.0		7.4	8.7	
		平均	2.2	13	6.6	8.6		7.7	9.0	

表 2 - 6 (2) 近年の水質の状況 (中川運河)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)			SS (mg/L)			大腸菌群数 (MPN/100mL)				
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均
中川運河 [E]	東海橋	H23	7.0	16	12	2以上	4	51	18	ごみ等 の浮遊 が認め られな いこ と。	-	-	-
		H22	7.6	16	11		5	28	11		-	-	
		H21	7.5	13	11		2	18	6		-	-	
		H20	7.6	16	11		1	16	6		-	-	
		H19	6.3	13	9.9		2	12	6		-	-	
		平均	7.2	15	11		3	25	9		-	-	

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛については、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03 mg/L 以下）を下回っていた（表2 - 7）。

表2 - 7 全亜鉛の状況（中川運河）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	～	最大	平均	N
中川運河 [E]	東海橋	H23	0.010	～	0.035	0.018	12
		H22	0.005	～	0.025	0.014	12
		H21	< 0.001	～	0.022	0.012	12
		H20	< 0.001	～	0.016	0.005	4
		H19	< 0.001	～	0.002	0.001	4
		平均	0.004	～	0.020	0.010	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

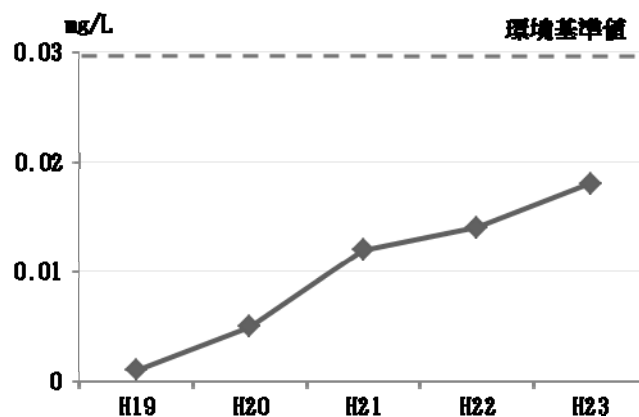


図2 - 2 全亜鉛の状況（中川運河）

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については31 で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については19 、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については、7 である（表2 - 8）。

表2 - 8 水温の状況（中川運河）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
中川運河 [E]	東海橋	H23	30.4	18.9	6.8	12
		H22	33.0	19.7	8.2	12
		H21	29.6	19.1	6.5	12
		H20	30.8	19.3	8.0	12
		H19	31.0	18.7	7.0	12
		平均	31.0	19.1	7.3	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に泥で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、船の出入りの際に水位差を調整するため、名古屋港側に中川口閘門、堀川側に松重閘門が設置されている(松重閘門は1976年1月に使用廃止)。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類(生物A)

中川運河	確認されていない
------	----------

温水性の魚介類(生物B)

中川運河	ボラ
------	----

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類は放流されていない。

学識者へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、学識者からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・名古屋市内水域では冷水性魚類は生息していない。
- ・名古屋市内水域では、オイカワ、フナ、コイが多く生息しているが、フナは近年減少している。
- ・名古屋市内水域では、河川改修等により産卵適地が減少していると思う。河川内に産卵に適した構造物や水草がない。
- ・中川運河で多い種を敢えて挙げるとするとボラである。
- ・中川運河では稚仔魚を確認したことがないので、産卵していないのではないかと。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

2 - 3 堀川

1 水域の概況

堀川は、庄内川水分橋上流の名古屋市守山区瀬古地先で庄内用水頭首工より分派し、矢田川を暗渠で横断した後、名古屋市の中心部を熱田台地の西に沿って北から南に貫流し、途中、新堀川を合わせて、港区千鳥地先で名古屋港へ注ぐ流路延長 16.20km、流域面積 52.85km² の一級河川である。下水道は、ほぼ全域が合流式で 100%整備されている。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 2 - 9 のとおりである。

表 2 - 9 環境基準類型指定状況 (堀川)

水域名	区間	類型	環境基準点
堀川	全域	D	港新橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD (75%値) は、全ての地点で環境基準を達成しており、3 ~ 5 mg/L 程度で推移している (表 2 - 10)。

表 2 - 10 (1) 近年の水質の状況 (堀川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH				
			最小	~	最大	平均	75%値	基準値	最小	~	最大	基準値
堀川 [D]	猿投橋	H23	0.6	~	4.2	1.8	2.2	8以下	7.1	~	7.5	6.0 ~ 8.5
		H22	0.9	~	4.8	2.4	3.2		7.0	~	7.6	
		H21	1.0	~	5.1	2.2	2.4		7.3	~	7.5	
		H20	1.1	~	4.0	2.4	2.9		6.8	~	7.6	
		H19	1.1	~	8.8	3.6	3.9		7.0	~	7.6	
		平均	0.9	~	5.4	2.5	2.9		7.0	~	7.6	
	小塩橋	H23	1.7	~	4.6	3.0	3.3		6.9	~	7.7	
		H22	1.6	~	6.1	3.0	3.3		6.7	~	7.0	
		H21	1.6	~	4.1	2.8	3.5		6.6	~	7.0	
		H20	2.0	~	9.3	3.6	3.8		6.7	~	7.0	
		H19	2.0	~	9.0	4.2	4.4		6.7	~	7.9	
		平均	1.8	~	6.6	3.3	3.7		6.7	~	7.3	
	港新橋	H23	1.0	~	21	5.2	4.8		7.2	~	8.4	
		H22	1.2	~	11	4.1	4.9		7.2	~	8.5	
		H21	1.3	~	7.5	3.5	4.2		7.0	~	8.0	
		H20	1.6	~	7.0	3.8	5.2		7.2	~	7.7	
		H19	2.5	~	12	5.2	6.6		7.2	~	8.0	
		平均	1.5	~	12	4.4	5.1		7.2	~	8.1	

備考 下線付きの地点名は、名古屋市環境保全条例に基づく調査地点を示す。

表 2 - 1 0 (2) 近年の水質の状況 (堀川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)		
			最小 ~ 最大	平均	基準値		最小 ~ 最大	平均	基準値		最小 ~ 最大	平均	基準値
堀川 [D]	猿投橋	H23	7.2 ~ 11	9.0	2以上	1 ~ 17	8	100 以下	110 ~ 4700	800	-		
		H22	6.4 ~ 12	9.1		<1 ~ 18	7		63 ~ 3900	640			
		H21	7.8 ~ 12	10		1 ~ 16	8		100 ~ 15000	1800			
		H20	6.6 ~ 12	9.1		<1 ~ 57	9		70 ~ 13000	1300			
		H19	6.2 ~ 12	9.1		1 ~ 15	8		5 ~ 1000	450			
		平均	6.8 ~ 12	9.3		1 ~ 25	8		70 ~ 7520	998			
	小塩橋	H23	2.6 ~ 5.8	4.7		4 ~ 26	10		-	-			
		H22	4.3 ~ 7.4	5.6		3 ~ 10	6		-	-			
		H21	5.2 ~ 9.1	6.7		3 ~ 16	8		-	-			
		H20	3.1 ~ 8.8	6.2		2 ~ 16	7		-	-			
		H19	2.4 ~ 7.2	5.1		4 ~ 15	8		-	-			
		平均	3.5 ~ 7.7	5.7		3 ~ 17	8		-	-			
	港新橋	H23	1.7 ~ 17	7.0		2 ~ 27	9		-	-			
		H22	3.3 ~ 16	6.8		<1 ~ 17	6		-	-			
		H21	2.4 ~ 17	6.6		<1 ~ 12	4		-	-			
		H20	4.2 ~ 8.5	6.7		1 ~ 13	5		-	-			
		H19	2.5 ~ 9.7	6.4		3 ~ 15	7		-	-			
		平均	2.8 ~ 14	6.7		2 ~ 17	6		-	-			

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

下線付きの地点名は、名古屋市環境保全条例に基づく調査地点を示す。

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を港新橋では平成 22 年度に上回っているが、それ以外は下回っていた (表 2 - 1 1)。

表 2 - 1 1 全亜鉛の状況 (堀川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)			
			最小 ~ 最大	平均	N	
堀川 [D]	港新橋	H23	0.018 ~ 0.035	0.026	12	
		H22	0.022 ~ 0.049	0.031	12	
		H21	0.002 ~ 0.028	0.015	12	
		H20	< 0.001 ~ 0.013	0.004	4	
		H19	< 0.001 ~ 0.010	0.004	4	
		平均	0.009 ~ 0.027	0.016	-	

備考 「N」は、測定回数を示す。

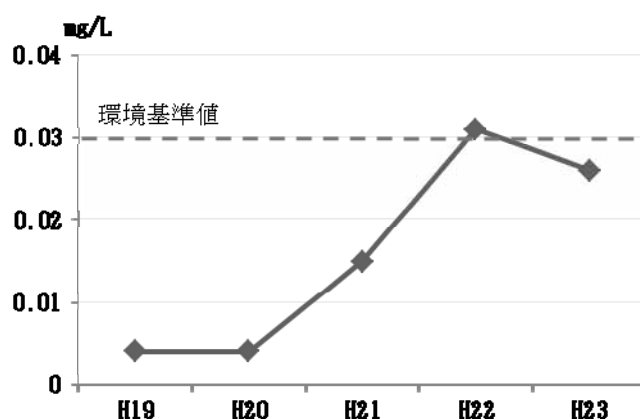


図 2 - 3 全亜鉛の状況（堀川）

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 28～30 程度で、各年度の平均水温の最近 5 年間の平均値については 18～21 程度、各年度の最低水温の最近 5 年間の平均値については、8～11 程度である（表 2 - 1 2）。

表 2 - 1 2 水温の状況（堀川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
堀川 [D]	猿投橋	H23	26.8	17.1	8.6	12
		H22	30.0	18.1	8.5	12
		H21	27.8	17.8	6.5	12
		H20	25.6	16.6	7.2	12
		H19	30.0	18.2	6.8	12
		平均	28.0	17.6	7.5	-
	小塩橋	H23	27.0	18.7	10.1	12
		H22	29.4	19.6	10.5	12
		H21	28.0	18.4	8.4	12
		H20	27.8	18.2	10.2	12
		H19	27.8	18.9	11.3	12
		平均	28.0	18.7	10.1	-
	港新橋	H23	28.6	20.7	10.1	12
		H22	31.9	20.8	11.2	12
		H21	28.9	20.7	11.0	12
		H20	30.5	21.1	12.2	12
		H19	30.8	19.8	9.9	12
		平均	30.1	20.6	10.9	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

下線付きの地点名は、名古屋市環境保全条例に基づく調査地点を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に砂で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、猿投橋地点に大きな落差がある。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

堀川	確認されていない
----	----------

温水性の魚介類（生物B）

堀川	ウグイ、オイカワ、ギンブナ、フナ類、コイ、ドジョウ、ナマズ、トウヨシノボリ、ウナギ、ボラ、スジエビ、テナガエビ、モクズガニ
----	---

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類は放流されていない。

学識者へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、学識者からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・名古屋市内水域では冷水性魚類は生息していない。
- ・名古屋市内水域では、オイカワ、フナ、コイが多く生息しているが、フナは近年減少している。
- ・名古屋市内水域では、河川改修等により産卵適地が減少していると思う。河川内に産卵に適した構造物や水草がない。
- ・堀川で多い魚種はオイカワである。
- ・堀川はかなりきれいになりボラが確認されるようになったが、黒川より上流には遡上できない。
- ・堀川の元杣樋門から猿投橋までの順流区間（黒川）は、堀川の中で唯一の平瀬が存在し、オイカワが産卵・繁殖している。
- ・堀川で6箇所湧水がみられる。湧水箇所ではセキショウモ等の水草が生育し、シジミが生息している等他と異なる環境となっている。これらの環境は特にカマツカにとって重要である。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

2 - 4 山崎川

1 水域の概況

二級河川山崎川は名古屋市千種区北東部に広がる平和公園内の猫ヶ洞池からの導水を水源とし、上流端は準用河川山崎川が合流し、出合橋付近では準用河川五軒家川が合流して名古屋港に注ぐ、延長約 12.4km（準用河川山崎川を含む総延長 13.6km）、流域面積約 26.6km²の河川である。

流域は名古屋市千種区、昭和区、瑞穂区、南区、港区、天白区の一部の区域により構成されている。流域のうち、上流部には比較的緑の豊かな大規模公園があり、中流部は住宅地、下流部は商工業地として高度に市街化されている。流域の下水道は合流式で 100%整備されている。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 2 - 1 3 のとおりである。

表 2 - 1 3 環境基準類型指定状況（山崎川）

水域名	区間	類型	環境基準点
山崎川	全域	D	道德橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD（75%値）は、全ての年度で環境基準を達成しており、2～5 mg/L 程度で推移している（表 2 - 1 4）。

表 2 - 1 4 (1) 近年の水質の状況（山崎川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH			
			最小	～	最大	平均	75%値	基準値	最小	～	最大
山崎川 [D]	鼎(かなえ)橋	H23	< 0.5	～	2.3	0.9	0.9	8以下	6.7 ～ 7.2		6.0 ～ 8.5
		H22	0.7	～	1.5	1.0	1.0		6.5 ～ 6.8		
		H21	1.0	～	1.9	1.4	1.5		6.7 ～ 7.0		
		H20	1.0	～	3.8	2.0	2.1		6.6 ～ 6.9		
		H19	0.9	～	3.1	1.9	2.0		6.4 ～ 6.7		
		平均	0.8	～	2.5	1.4	1.5		6.6 ～ 6.9		
	道德橋	H23	1.5	～	10	5.1	5.9		7.1 ～ 8.0		
		H22	1.6	～	15	4.4	4.2		7.2 ～ 8.2		
		H21	1.4	～	7.6	3.7	4.7		7.0 ～ 7.8		
		H20	1.6	～	8.1	3.6	4.4		7.0 ～ 7.7		
		H19	2.4	～	7.4	3.9	3.9		7.0 ～ 7.9		
		平均	1.7	～	9.6	4.1	4.6		7.1 ～ 7.9		

備考 下線付きの地点名は、名古屋市環境保全条例に基づく調査地点を示す。

表 2 - 1 4 (2) 近年の水質の状況 (山崎川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)			
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
山崎川 [D]	鼎(かなえ)橋	H23	5.5	12	9.3	2以上	<1	2	1	100以下	48	10000	1600	-
		H22	7.7	12	9.5	<1	3	2	85	2700	850			
		H21	8.0	12	9.6	<1	4	2	62	1800	730			
		H20	7.5	12	9.4	<1	8	3	34	7800	1100			
		H19	6.2	12	9.2	1	12	6	5	7400	2000			
		平均	7.0	12	9.4	1	6	3	47	5940	1256			
	道德橋	H23	<0.5	10	4.6	2	18	7	-	-	-			
		H22	2.7	16	7.4	1	19	5	-	-				
		H21	3.5	8.6	5.7	1	14	5	-	-				
		H20	4.7	10	6.2	2	11	5	-	-				
		H19	2.1	9.8	5.9	2	10	5	-	-				
		平均	3.3	11	6.0	2	14	5	-	-				

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

下線付きの地点名は、名古屋市環境保全条例に基づく調査地点を示す。

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を下回っていた (表 2 - 1 5)

表 2 - 1 5 全亜鉛の状況 (山崎川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)			
			最小	最大	平均	N
山崎川 [D]	道德橋	H23	0.012	0.039	0.024	12
		H22	0.014	0.044	0.022	12
		H21	0.003	0.024	0.011	12
		H20	< 0.001	0.012	0.004	4
		H19	< 0.001	0.001	0.001	4
		平均	0.006	0.024	0.012	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

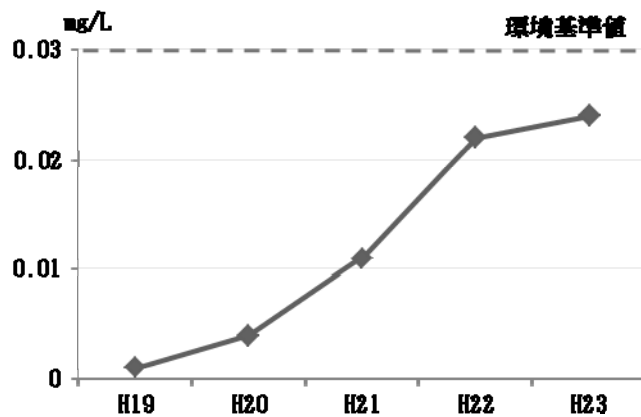


図 2 - 4 全亜鉛の状況 (山崎川)

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については27～32程度で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については18～22程度、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については、9～12程度である（表2-16）。

表2-16 水温の状況（山崎川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温（ ）			
			最高	平均	最小	N
山崎川 [D]	鼎（かなえ）橋	H23	25.5	17.5	8.8	12
		H22	28.0	18.8	10.0	12
		H21	27.5	18.5	8.4	12
		H20	26.1	18.1	9.4	12
		H19	26.0	18.2	9.9	12
		平均	26.6	18.2	9.3	-
	道德橋	H23	29.8	21.7	11.1	12
		H22	35.0	22.2	11.2	12
		H21	31.3	22.3	12.0	12
		H20	31.8	22.3	13.8	12
		H19	32.0	22.2	11.0	12
		平均	32.0	22.2	11.8	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

下線付きの地点名は、名古屋市環境保全条例に基づく調査地点を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に砂礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、複数の落差工が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

山崎川	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類（生物B）

山崎川	ウグイ、オイカワ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、フナ類、コイ、ドジョウ、ナマズ、トウヨシノボリ、ウナギ、ボラ、スジエビ、テナガエビ、モクスガニ
-----	---

（2）その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類は放流されていない。

学識者へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、学識者からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・名古屋市内水域では冷水性魚類は生息していない。
- ・名古屋市内水域では、オイカワ、フナ、コイが多く生息しているが、フナは近年減少している。
- ・名古屋市内水域では、河川改修等により産卵適地が減少していると思う。河川内に産卵に適した構造物や水草がない。
- ・山崎川で多い魚種はオイカワ、スミウキゴリである。
- ・山崎川では一番多く生息していたオイカワが近年減少している。コイによる影響が大きいと思う。
- ・最近になってアユの分布域が広がってきた。山崎川でも確認されていると聞く。
- ・山崎川は都市河川なので、河川内には良好な産卵場・幼稚仔の生育場はない。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物B魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

2 - 5 天白川

1 水域の概況

天白川は、その源を愛知県日進市米野木町三ヶ峯付近に発し、岩崎川、繁盛川を合わせ、名古屋市に入り植田川、藤川、扇川を合わせ、港区船見町地内で名古屋港を経て伊勢湾に注ぐ、河川延長約 21.5km、流域面積約 118.8km²の二級河川である。

天白川流域の下水道整備は、支川の植田川流域ではほぼ整備が完了している。本川流域のうち、名古屋市内については 1990 年までに整備されたが、上流域の日進市については、1989 年度（北部処理区）以降順次供用が供用開始され、現在も整備が進められている。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 2 - 17 のとおりである。

表 2 - 17 環境基準類型指定状況（天白川）

水域名	区間	類型	環境基準点
天白川	全域	C	千鳥橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD（75%値）は、天白橋の平成 19、21、22 年度、千鳥橋の平成 21、22 年度で環境基準を超過しており、4～5 mg/L 程度で推移している（表 2 - 18）。

表 2 - 1 8 (1) 近年の水質の状況 (天白川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)				pH			
			最小	最大	平均	75%値	基準値	最小	最大	基準値
天白川 [C]	新島田橋	H23	-	-	-	-	5以下	-	-	6.5 ~ 8.5
		H22	-	-	-	-		-		
		H21	1.7	8.4	4.1	5.4		7.1	7.4	
		H20	1.3	4.9	3.0	3.3		7.2	7.6	
		H19	1.9	5.7	4.0	4.4		7.0	7.4	
		平均	1.6	6.3	3.7	4.4		7.1	7.5	
	天白橋	H23	1.5	16	4.0	3.5		7.2	7.8	
		H22	1.4	5.8	4.2	5.4		7.1	8.1	
		H21	1.6	7.6	4.2	5.3		7.1	7.6	
		H20	2.5	9.2	4.7	4.8		7.2	7.6	
		H19	2.8	9.0	5.7	7.8		7.2	7.6	
		平均	2.0	9.5	4.6	5.4		7.2	7.7	
	千鳥橋	H23	1.0	6.1	3.0	3.2		7.2	8.0	
		H22	1.4	6.4	3.4	5.4		7.3	8.4	
		H21	1.3	8.5	4.2	5.1		7.2	8.9	
		H20	1.8	9.6	3.7	3.9		7.3	7.9	
		H19	2.1	18	4.7	4.0		7.2	8.6	
		平均	1.5	9.7	3.8	4.3		7.2	8.4	

備考 下線付きの地点名は、名古屋市環境保全条例に基づく調査地点を示す。

表 2 - 1 8 (2) 近年の水質の状況 (天白川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)			SS (mg/L)			大腸菌群数 (MPN/100mL)				
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均
天白川 [C]	新島田橋	H23	-	-	-	5以上	-	-	-	50以下	-	-	-
		H22	-	-	-		-	-					
		H21	7.8	10	8.8		2	9	4		-	-	
		H20	7.9	11	9.3		2	7	4		-	-	
		H19	7.5	11	8.7		3	6	4		-	-	
		平均	7.7	11	8.9		2	7	4		-	-	
	天白橋	H23	3.7	11	8.3		1	27	6		-	-	
		H22	6.1	11	8.3		<1	8	3		-	-	
		H21	6.7	9.5	8.3		1	11	5		-	-	
		H20	6.2	10	8.1		1	12	5		-	-	
		H19	5.7	10	7.8		2	11	4		-	-	
		平均	5.7	10	8.2		1	14	5		-	-	
	千鳥橋	H23	3.1	10	6.5		3	15	6		-	-	
		H22	4.8	14	7.9		2	13	7		-	-	
		H21	4.1	17	7.9		1	31	8		-	-	
		H20	5.2	11	7.5		2	14	6		-	-	
		H19	4.8	18	8.1		4	38	9		-	-	
		平均	4.4	14	7.6		2	22	7		-	-	

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

下線付きの地点名は、名古屋市環境保全条例に基づく調査地点を示す。

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を下回っていた (表 2 - 1 9)。

表 2 - 1 9 全亜鉛の状況（天白川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	～	最大	平均	N
天白川 [C]	千鳥橋	H23	0.016	～	0.049	0.025	12
		H22	0.010	～	0.030	0.018	12
		H21	0.004	～	0.021	0.011	12
		H20	< 0.001	～	0.008	0.003	4
		H19	< 0.001	～	0.005	0.002	4
		平均	0.006	～	0.023	0.012	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

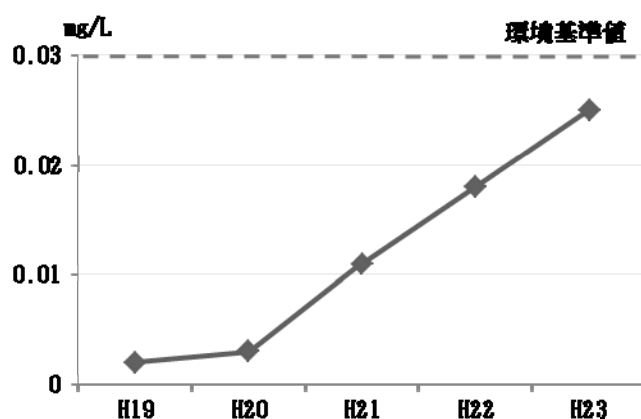


図 2 - 5 全亜鉛の状況（天白川）

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 30～31 程度で、各年度の平均水温の最近 5 年間の平均値については 19～21 程度、各年度の最低水温の最近 5 年間の平均値については、9～12 程度である（表 2 - 2 0）。

表 2 - 2 0 水温の状況（天白川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
天白川 [C]	新島田橋	H23	-	-	-	-
		H22	-	-	-	-
		H21	30.0	21.6	13.5	12
		H20	29.0	20.2	11.5	12
		H19	30.2	21.3	10.3	12
		平均	29.7	21.0	11.8	-
	天白橋	H23	28.4	19.6	8.7	12
		H22	33.0	19.6	9.0	12
		H21	29.2	19.4	8.5	12
		H20	28.0	18.6	9.1	12
		H19	31.0	19.3	8.0	12
		平均	29.9	19.3	8.7	-
	千鳥橋	H23	29.3	19.2	8.3	12
		H22	32.5	20.6	10.0	12
		H21	31.5	20.4	10.0	12
		H20	31.0	20.5	10.9	12
		H19	32.0	20.8	10.0	12
		平均	31.3	20.3	9.8	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

下線付きの地点名は、名古屋市環境保全条例に基づく調査地点を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、感潮区間は主に砂、感潮区間より上流は主に礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、多くの落差工等が設置され、魚道も設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物 A）

天白川	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類（生物B）

天白川	オイカワ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、フナ類、コイ、ドジョウ、ナマズ、トウヨシノボリ、ウナギ、ボラ、スジエビ、テナガエビ、モクスガニ
-----	---

（2）その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類は放流されていない。

学識者へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、学識者からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・名古屋市内水域では冷水性魚類は生息していない。
- ・名古屋市内水域では、オイカワ、フナ、コイが多く生息しているが、フナは近年減少している。
- ・名古屋市内水域では、河川改修等により産卵適地が減少していると思う。河川内に産卵に適した構造物や水草がない。
- ・天白川では毎年アユの遡上が確認されている。放流していないので、天然遡上である。
- ・天白川で特徴的な魚種はトウヨシノボリである。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

3 境川等水域

3 - 1 境川

1 水域の概況

境川は、その源をみよし市北部（標高約 150m）の丘陵地帯に発して南流し、井守川、新寺田川、小石川、前川、若王子川、茶屋川、井堰川、正戸川、皆瀬川、明神川、砂川及び石ヶ瀬川と合流し、下流部において境川の左岸側に隣接した流域を持つ逢妻川と右支川の五ヶ村川と並行に流れ三河湾に注いでいる。その流路延長は約 25km、流域面積は約 221km²である。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 3 - 1 のとおりである。

表 3 - 1 環境基準類型指定状況（境川）

水域名	区間	類型	環境基準点
境川上流	新境橋より上流	B	新境橋
境川下流	新境橋より下流	C	境大橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD（75%値）は、境大橋では全ての年度で環境基準を達成しているが、新境橋では全ての年度で環境基準を超過しており、3～4 mg/L 程度で推移している（表 3 - 2）。

表 3 - 2 (1) 近年の水質の状況（境川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)				pH			
			最小	～ 最大	平均	75%値	基準値	最小	～ 最大	基準値
境川上流 [B]	新境橋	H23	0.9	～ 5.8	3.1	4.3	3以下	7.1	～ 7.6	6.5 ～ 8.5
		H22	1.4	～ 11	4.2	5.7		6.9	～ 8.1	
		H21	1.0	～ 12	3.6	4.3		7.2	～ 8.4	
		H20	1.1	～ 3.3	2.6	3.2		7.0	～ 8.0	
		H19	1.7	～ 8.8	3.5	3.7		7.1	～ 8.2	
		平均	1.2	～ 8.2	3.4	4.2		7.1	～ 8.1	
境川下流 [C]	境大橋	H23	0.9	～ 6.7	2.7	3.4	5以下	6.8	～ 8.1	6.5 ～ 8.5
		H22	1.1	～ 9.4	3.6	3.7		6.9	～ 7.5	
		H21	1.1	～ 4.7	2.5	2.9		7.1	～ 7.4	
		H20	1.3	～ 3.7	2.5	3.1		7.0	～ 7.5	
		H19	1.9	～ 5.2	2.8	2.9		6.8	～ 7.4	
		平均	1.3	～ 5.9	2.8	3.2		6.9	～ 7.6	

表3 - 2 (2) 近年の水質の状況 (境川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)			SS (mg/L)			大腸菌群数 (MPN/100mL)								
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値			
境川上流 [B]	新境橋	H23	8.0	~	11	9.8	5以上	2	~	14	6	25以下	38000	~	790000	210000	5000 以下
		H22	7.4	~	11	9.3		1	~	27	11		1700	~	540000	160000	
		H21	6.0	~	13	9.6		1	~	15	6		3400	~	490000	110000	
		H20	7.0	~	12	9.5		3	~	31	10		130	~	220000	73000	
		H19	7.7	~	13	9.7		2	~	13	5		2300	~	240000	63000	
		平均	7.2	~	12	9.6		2	~	20	8		9106	~	456000	123200	
境川下流 [C]	境大橋	H23	6.5	~	11	8.4	5以上	3	~	17	8	50以下	-	-	-	-	
		H22	6.2	~	11	8.0		1	~	86	16		-	-	-		
		H21	7.0	~	10	8.3		2	~	11	5		-	-	-		
		H20	7.3	~	12	8.6		2	~	35	10		-	-	-		
		H19	3.6	~	11	7.6		1	~	9	5		-	-	-		
		平均	6.1	~	11	8.2		2	~	32	9		-	-	-		

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を新境橋では平成19年度、境大橋では平成19年度及び平成20年度に上回っていたが、それ以外は下回っている (表3 - 3)。

表3 - 3 全亜鉛の状況 (境川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	最大	平均	N	
境川上流 [B]	新境橋	H23	0.009	~	0.035	0.019	12
		H22	0.009	~	0.056	0.027	12
		H21	0.005	~	0.034	0.013	12
		H20	0.014	~	0.037	0.022	4
		H19	0.019	~	0.054	0.033	4
		平均	0.011	~	0.043	0.023	-
境川下流 [C]	境大橋	H23	0.008	~	0.048	0.030	12
		H22	0.008	~	0.070	0.029	12
		H21	0.003	~	0.044	0.020	12
		H20	0.029	~	0.045	0.041	4
		H19	0.021	~	0.065	0.043	4
		平均	0.014	~	0.054	0.033	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

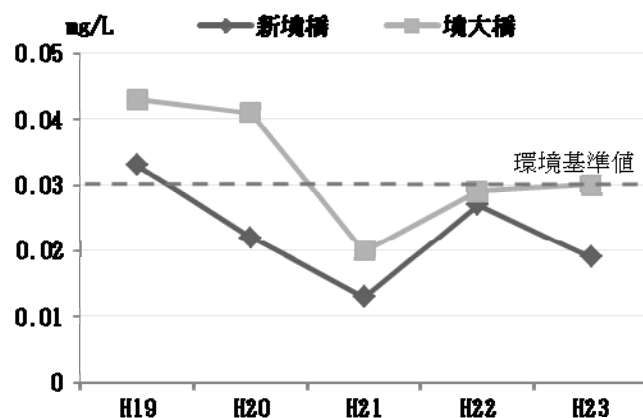


図3 - 1 全亜鉛の状況（境川）

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については30 程度で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については18～19 程度、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については、5～6 程度である（表3 - 4 ）。

表3 - 4 水温の状況（境川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
境川上流 [B]	新境橋	H23	29.8	18.4	6.6	12
		H22	30.5	17.7	4.9	12
		H21	29.5	18.8	6.5	12
		H20	32.5	19.0	5.5	12
		H19	31.5	19.2	7.2	12
		平均	30.8	18.6	6.1	-
境川下流 [C]	境大橋	H23	28.2	17.6	6.1	12
		H22	30.5	17.1	4.0	12
		H21	29.0	18.5	5.8	12
		H20	31.3	18.0	5.3	12
		H19	30.0	18.0	4.5	12
		平均	29.8	17.9	5.1	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に礫や砂、河口部においては泥で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、多くの落差工が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

境川上流	確認されていない
境川下流	確認されていない

温水性の魚介類（生物B）

境川上流	オイカワ、ギンブナ、フナ類、ドジョウ、ナマズ、オオヨシノボリ、スジエビ
境川下流	オイカワ、フナ類、コイ、ナマズ、トウヨシノボリ、ウナギ、ボラ、テナガエビ、モクズガニ

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類は放流されていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 境川では冷水性の魚類は生息していない。・ 境川を含む境川等水域では河川水が汚く、澄んでいないため、魚介類の産卵場や幼稚子の成育場は分かりづらい。 |
|---|

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

3 - 2 逢妻川

1 水域の概況

境川流域の約4割の流域面積を占める最大の支川である逢妻川は、豊田市南西部（標高約130m）の丘陵地帯に源を發し布袋子川と合流し、逢妻女川として南流し、豊田市街地に源を發する逢妻男川と合流後、逢妻川として水干川、流れ川、後川、發杭川、恩田川の支川と合流後、河口から約5km地点で境川と並行に流れ三河湾に注いでいる。逢妻川の流路延長は約11km、流域面積は約87km²である。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表3-5のとおりである。

表3-5 環境基準類型指定状況（逢妻川）

水域名	区間	類型	環境基準点
逢妻川上流	境大橋より上流	D	境大橋
逢妻川下流	境大橋より下流	D	市原橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD(75%値)は、全ての調査地点で環境基準を達成しており、2~4mg/L程度で推移している(表3-6)。

表3-6(1) 近年の水質の状況(逢妻川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH		
			最小	最大	平均	75%値	基準値	最小	最大	基準値
逢妻川 上流 [D]	御乗替橋	H23	< 0.5	~ 8.2	3.2	3.7	8以下	7.2	~ 8.5	6.0 ~ 8.5
		H22	1.3	~ 8.2	3.8	5.6		7.3	~ 7.8	
		H21	1.3	~ 6.1	3.2	3.6		7.0	~ 7.8	
		H20	1.7	~ 5.2	3.3	4.1		7.0	~ 7.4	
		H19	1.2	~ 5.0	3.0	3.7		7.0	~ 7.6	
		平均	1.2	~ 6.5	3.3	4.1		7.1	~ 7.8	
	宮前橋	H23	0.8	~ 2.8	1.7	1.8		7.0	~ 7.9	
		H22	0.8	~ 2.8	1.8	2.4		7.0	~ 7.5	
		H21	0.9	~ 3.2	2.0	2.2		6.5	~ 7.4	
		H20	1.4	~ 5.1	2.5	2.7		6.8	~ 7.2	
		H19	1.1	~ 4.8	2.5	3.1		6.8	~ 7.2	
		平均	1.0	~ 3.7	2.1	2.4		6.8	~ 7.4	
	境大橋	H23	1.2	~ 6.1	2.7	3.5		6.8	~ 7.1	
		H22	1.3	~ 5.5	2.9	3.6		6.8	~ 7.3	
		H21	1.2	~ 4.1	2.6	3.1		6.8	~ 7.2	
		H20	1.6	~ 5.8	3.2	3.7		6.8	~ 7.2	
		H19	1.7	~ 4.6	3.1	3.8		6.8	~ 7.2	
		平均	1.4	~ 5.2	2.9	3.5		6.8	~ 7.2	
逢妻川 下流 [D]	市原橋	H23	0.6	~ 8.0	2.1	2.1	6.8	~ 8.2		
		H22	0.5	~ 4.6	2.4	3.6	6.9	~ 7.8		
		H21	0.8	~ 3.2	1.6	1.7	7.0	~ 7.8		
		H20	0.8	~ 3.9	2.2	2.7	6.8	~ 8.0		
		H19	1.2	~ 17	3.8	3.6	6.9	~ 8.4		
		平均	0.8	~ 7.3	2.4	2.7	6.9	~ 8.0		

表3-6(2) 近年の水質の状況(逢妻川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)					
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値		
逢妻川 上流 [D]	御乗替橋	H23	7.9	~ 13	10	2以上	4	~ 23	8	100 以下	4900	~ 54000	14000	-		
		H22	7.2	~ 12	9.4		4	~ 20	10		-	-				
		H21	8.2	~ 12	9.9		3	~ 32	9		-	-				
		H20	7.9	~ 11	9.2		4	~ 43	13		-	-				
		H19	7.4	~ 13	10		4	~ 35	11		-	-				
		平均	7.7	~ 12	9.7		4	~ 31	10		-	-				
	宮前橋	H23	8.7	~ 13	11		3	~ 18	7		700	~ 54000	18000		-	-
		H22	8.7	~ 12	10		1	~ 20	5		-	-				
		H21	8.8	~ 12	10		4	~ 13	7		-	-				
		H20	8.4	~ 11	9.6		3	~ 18	8		-	-				
		H19	8.4	~ 11	9.6		4	~ 16	8		-	-				
		平均	8.6	~ 12	10		3	~ 17	7		-	-				
	境大橋	H23	4.2	~ 10	6.6		5	~ 25	10		-	-				
		H22	4.5	~ 9.4	6.8		2	~ 33	12		-	-				
		H21	5.3	~ 9.1	7.4		5	~ 21	10		-	-				
		H20	5.8	~ 8.5	7.1		5	~ 19	13		-	-				
		H19	5.7	~ 9.5	7.3		3	~ 24	10		-	-				
		平均	5.1	~ 9.3	7.0		4	~ 24	11		-	-				
逢妻川 下流 [D]	市原橋	H23	4.3	~ 11	6.3	5	~ 28	15	-	-						
		H22	4.5	~ 9.9	6.8	4	~ 39	14	-	-						
		H21	4.8	~ 9.4	6.3	3	~ 32	11	-	-						
		H20	4.5	~ 8.9	6.2	4	~ 27	15	-	-						
		H19	3.8	~ 12	6.1	3	~ 25	14	-	-						
		平均	4.4	~ 10	6.3	4	~ 30	14	-	-						

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03 mg/L 以下）を市原橋では平成 21 年度に下回っていたが、それ以外は上回っていた（表 3 - 7）。

表 3 - 7 全亜鉛の状況（逢妻川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	～	最大	平均	N
逢妻川 上流 [D]	御乗替橋	H23	0.017	～	0.066	0.035	12
		H22	0.016	～	0.11	0.047	12
		H21	0.013	～	0.087	0.035	12
		H20	0.027	～	0.067	0.042	4
		H19	0.015	～	0.058	0.034	4
		平均	0.018	～	0.078	0.039	-
	宮前橋	H23	0.025	～	0.10	0.053	12
		H22	0.020	～	0.085	0.052	12
		H21	0.019	～	0.12	0.052	12
		H20	0.021	～	0.080	0.048	4
		H19	0.033	～	0.087	0.051	4
		平均	0.024	～	0.094	0.051	-
	境大橋	H23	0.028	～	0.091	0.055	12
		H22	0.019	～	0.076	0.047	12
		H21	0.020	～	0.059	0.037	12
		H20	0.039	～	0.060	0.047	4
		H19	0.054	～	0.11	0.084	4
		平均	0.032	～	0.079	0.054	-
逢妻川 下流 [D]	市原橋	H23	0.018	～	0.070	0.040	12
		H22	0.006	～	0.068	0.032	12
		H21	0.012	～	0.053	0.028	12
		H20	0.035	～	0.085	0.052	4
		H19	0.042	～	0.085	0.056	4
		平均	0.023	～	0.072	0.042	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

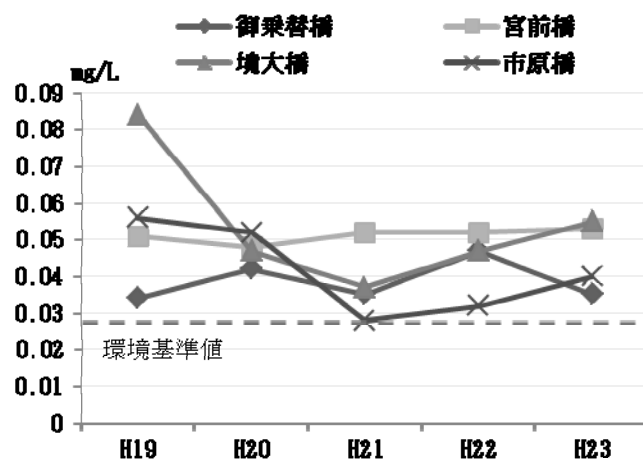


図 3 - 2 全亜鉛の状況 (逢妻川)

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 29~30 程度で、各年度の平均水温の最近 5 年間の平均値については 18~19 程度、各年度の最低水温の最近 5 年間の平均値については、6~8 程度である (表 3 - 8)。

表 3 - 8 水温の状況 (逢妻川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
逢妻川 上流 [D]	御乗替橋	H23	30.5	19.2	11.0	12
		H22	31.0	18.8	4.5	12
		H21	29.8	18.6	6.5	12
		H20	30.5	19.0	6.9	12
		H19	29.0	17.8	6.7	12
		平均	30.2	18.7	7.1	-
	宮前橋	H23	28.7	19.8	9.0	12
		H22	31.0	19.6	4.5	12
		H21	29.5	18.8	9.4	12
		H20	29.9	19.3	10.1	12
		H19	28.0	18.3	8.4	12
		平均	29.4	19.2	8.3	-
	境大橋	H23	27.2	17.4	6.0	12
		H22	29.0	17.5	6.4	12
		H21	29.0	18.7	7.8	12
		H20	30.5	18.0	6.7	12
		H19	29.0	17.6	5.0	12
		平均	28.9	17.8	6.4	-
逢妻川 下流 [D]	市原橋	H23	29.5	18.5	3.0	12
		H22	30.5	18.8	8.0	12
		H21	30.8	19.5	8.4	12
		H20	31.5	18.7	8.6	12
		H19	29.4	18.4	6.0	12
		平均	30.3	18.8	6.8	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に上流部では礫や石、下流部では砂や泥で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、逢妻女川では多くの落差工や堰が設置されている。
逢妻男川では上流では落差工、堰が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

逢妻川上流	確認されていない
逢妻川下流	確認されていない

温水性の魚介類（生物B）

逢妻川上流	オイカワ、ギンブナ、フナ類、コイ、ドジョウ、ナマズ、トウヨシノボリ、ウナギ、ボラ、スジエビ、テナガエビ
逢妻川下流	確認されていない

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はされていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・逢妻川では冷水性の魚類は生息していない。
- ・逢妻川を含む境川等水域では河川水が汚く、澄んでいないため、魚介類の産卵場や幼稚子の成育場は分かりづらい。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

3 - 3 猿渡川

1 水域の概況

猿渡川は、その源を豊田市山之手（標高約 50m）の市街地に発し、石田川、吹戸川、森前川及び下り松川と合流し三河湾へ注いでいる。その流路延長は約 18km、流域面積は約 46km²である。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 3 - 9 のとおりである。

表 3 - 9 環境基準類型指定状況（猿渡川）

水域名	区間	類型	環境基準点
猿渡川	全域	D	三ツ又橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD（75%値）は、全ての年度で環境基準を達成しており、4 mg/L 程度で推移している（表 3 - 10）。

表 3 - 10 (1) 近年の水質の状況（猿渡川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH		
			最小	最大	平均	75%値	基準値	最小	最大	基準値
猿渡川 [D]	三ツ又橋	H23	1.0	5.1	2.5	3.6	8以下	6.7	7.3	6.0 ~ 8.5
		H22	2.0	5.9	3.6	3.9		6.8	7.9	
		H21	2.4	15	6.3	4.8		6.9	8.3	
		H20	1.7	6.7	3.5	3.6		6.9	7.2	
		H19	2.4	9.9	4.9	5.7		6.9	7.2	
		平均	1.9	8.5	4.2	4.3		6.8	7.6	

表 3 - 10 (2) 近年の水質の状況（猿渡川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)			SS (mg/L)			大腸菌群数 (MPN/100mL)					
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
猿渡川 [D]	三ツ又橋	H23	5.6	10	7.5	2以上	3	33	10	100 以下	-	-	-	-
		H22	6.3	9.6	7.8		2	26	11		-	-		
		H21	5.6	10	8.0		5	52	17		-	-		
		H20	6.9	9.8	8.5		2	26	12		-	-		
		H19	7.0	11	8.6		2	18	9		-	-		
		平均	6.3	10	8.1		3	31	12		-	-		

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03 mg/L 以下）を下回っていた（表3 - 11）。

表3 - 11 全亜鉛の状況（猿渡川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	~	最大	平均	N
猿渡川 [D]	三ツ又橋	H23	0.010	~	0.048	0.027	12
		H22	0.009	~	0.035	0.020	12
		H21	0.006	~	0.035	0.019	12
		H20	0.017	~	0.029	0.023	4
		H19	0.014	~	0.041	0.023	4
		平均	0.011	~	0.038	0.022	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

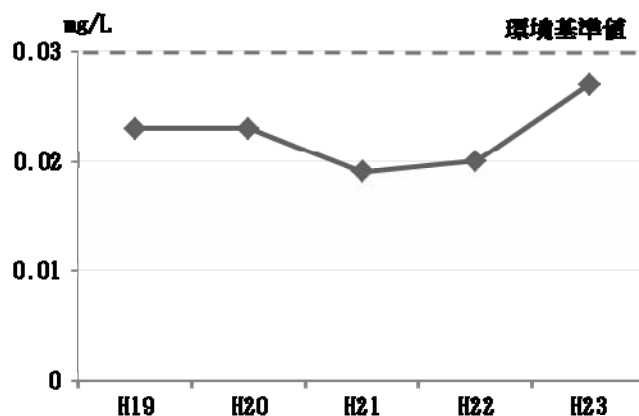


図3 - 3 全亜鉛の状況（猿渡川）

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については28 で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については18、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については5 である（表3 - 12）。

表 3 - 1 2 水温の状況（猿渡川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
猿渡川 [D]	三ツ又橋	H23	26.5	17.0	4.3	12
		H22	29.0	17.8	6.5	12
		H21	28.0	17.8	5.0	12
		H20	29.6	18.3	6.6	12
		H19	28.8	17.9	4.2	12
		平均	28.4	17.8	5.3	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、概ね礫や石で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、上流では多くの落差工や堰が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物 A）

猿渡川	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類（生物 B）

猿渡川	オイカワ、フナ類、コイ、ドジョウ、ナマズ、ウナギ、ボラ、テナガエビ
-----	-----------------------------------

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はされていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・猿渡川では冷水性の魚類は生息していない。
- ・猿渡川を含む境川等水域では河川水が汚く、澄んでいないため、魚介類の産卵場や幼稚仔の成育場は分かりづらい。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物 A 及び生物 B の魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

3 - 4 稗田川

1 水域の概況

稗田川は、碧南市広見町付近で高浜川に合流する、河川延長約 5.4km、川幅約 5 ~ 40m の河川である。高浜川合流点から法響橋付近までの整備が概ね完成している。河道は板柵護岸で整備され、上流部が掘込河道、下流部が有堤河道である。背後には、上流部では農地、下流部では市街地が広がっている。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 3 - 1 3 のとおりである。

表 3 - 1 3 環境基準類型指定状況（稗田川）

水域名	区間	類型	環境基準点
稗田川	全域	C	稗田橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD (75%値) は、全ての年度で環境基準を達成しており、3 mg/L 程度で推移している (表 3 - 1 4)。

表 3 - 1 4 (1) 近年の水質の状況（稗田川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH		
			最小	最大	平均	75%値	基準値	最小	最大	基準値
稗田川 [C]	稗田橋	H23	1.5	5.9	2.9	3.1	5以下	6.7	7.0	6.5 ~ 8.5
		H22	1.7	4.5	2.7	2.9		6.7	7.0	
		H21	1.4	4.6	2.6	3.1		6.8	7.1	
		H20	1.5	5.8	3.4	3.8		6.8	7.0	
		H19	2.5	6.1	3.9	4.3		6.7	7.0	
		平均	1.7	5.4	3.1	3.4		6.7	7.0	

表 3 - 1 4 (2) 近年の水質の状況（稗田川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)			SS (mg/L)			大腸菌群数 (MPN/100mL)				
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均
稗田川 [C]	稗田橋	H23	5.5	10	7.9	5以上	2	32	10	50以下	-	-	-
		H22	5.8	10	8.1		3	64	13		-	-	
		H21	5.8	10	8.4		1	34	12		-	-	
		H20	6.8	9.1	7.9		5	51	16		-	-	
		H19	2.5	10	7.0		1	41	11		-	-	
		平均	5.3	9.8	7.9		2	44	12		-	-	

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03 mg/L 以下）を下回っていた（表3 - 15）。

表3 - 15 全亜鉛の状況（稗田川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	~	最大	平均	N
稗田川 [C]	稗田橋	H23	0.005	~	0.037	0.019	12
		H22	0.005	~	0.030	0.013	12
		H21	0.004	~	0.015	0.009	12
		H20	0.009	~	0.043	0.021	4
		H19	0.013	~	0.020	0.016	4
		平均	0.007	~	0.029	0.016	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

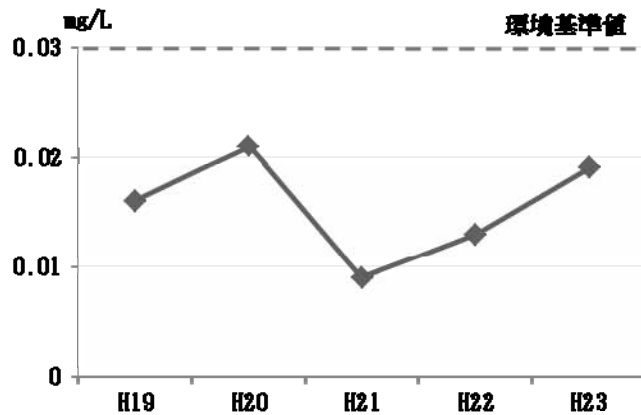


図3 - 4 全亜鉛の状況（稗田川）

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については29 で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については18、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については8 である（表3 - 16）。

表 3 - 1 6 水温の状況（稗田川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
稗田川 [C]	稗田橋	H23	29.0	17.8	5.0	12
		H22	29.4	17.8	6.9	12
		H21	26.0	17.8	6.0	12
		H20	29.8	18.4	10.1	12
		H19	28.4	18.4	10.0	12
		平均	28.5	18.0	7.6	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に砂または礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、落差工や護床工が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物 A）

稗田川	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類（生物 B）

稗田川	オイカワ、コイ、ドジョウ、ナマズ、トウヨシノボリ、ウナギ
-----	------------------------------

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はされていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、油ヶ淵漁業協同組合及び碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果は以下のとおりである。

- ・稗田川では冷水性の魚類は生息していない。
- ・稗田川を含む油ヶ淵及び流入河川の代表的な種は、フナ、コイ、ナマズ、ウナギ、セイゴ（スズキ）、ボラ、モクズガニ、テナガエビなどである。
- ・稗田川を含む境川等水域では河川水が汚く、澄んでいないため、魚介類の産卵場や幼稚仔の成育場は分かりづらい。
- ・魚介類の産卵場・幼稚仔の生育場は油ヶ淵に流入する河川の上流であると思うが、正確には分からない。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

3 - 5 高浜川

1 水域の概況

高浜川は、油ヶ淵から分派した後、碧南市広見町地内で稗田川を合わせ、高浜市碧海町地内で衣浦港に注ぐ、河川延長約 2.7 km、川幅約 70～120m の河川である。高潮対策事業により高潮堤防や高浜川水門（平成 3 年完成）の整備が進められ、概ね完成している。河道には護岸が整備され、一部有堤河道である。背後には市街地が広がっている。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 3 - 1 7 のとおりである。

表 3 - 1 7 環境基準類型指定状況（高浜川）

水域名	区間	類型	環境基準点
高浜川	全域	C	高浜橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD（75%値）は、全ての年度で環境基準を達成しており、3 mg/L 程度で推移している（表 3 - 1 8）。

表 3 - 1 8 (1) 近年の水質の状況（高浜川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH				
			最小	～	最大	平均	75%値	基準値	最小	～	最大	基準値
高浜川 [C]	高浜橋	H23	1.0	～	4.0	2.1	2.3	5以下	6.8	～	8.4	6.5 ～ 8.5
		H22	1.0	～	3.9	2.1	2.4		7.1	～	9.0	
		H21	1.3	～	6.6	2.3	2.4		7.0	～	8.2	
		H20	1.3	～	4.6	2.2	2.4		6.8	～	8.2	
		H19	1.9	～	6.0	3.7	4.6		7.0	～	8.6	
		平均	1.3	～	5.0	2.5	2.8		6.9	～	8.5	

表 3 - 1 8 (2) 近年の水質の状況 (高浜川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)			
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
高浜川 [C]	高浜橋	H23	3.5	~	14	8.3	2	~	35	11	-	-	-	-
		H22	4.6	~	19	10	1	~	33	14	-	-	-	-
		H21	5.3	~	11	8.0	1	~	24	12	-	-	-	-
		H20	5.4	~	10	7.0	1	~	28	12	-	-	-	-
		H19	2.9	~	12	8.4	2	~	18	9	-	-	-	-
		平均	4.3	~	13	8.3	1	~	28	12	-	-	-	-

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を下回っていた (表 3 - 1 9)。

表 3 - 1 9 全亜鉛の状況 (高浜川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	最大	平均	N	
高浜川 [C]	高浜橋	H23	0.002	~	0.028	0.011	12
		H22	0.003	~	0.018	0.008	12
		H21	< 0.001	~	0.021	0.011	12
		H20	0.012	~	0.018	0.015	4
		H19	0.006	~	0.025	0.016	4
		平均	0.005	~	0.022	0.012	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

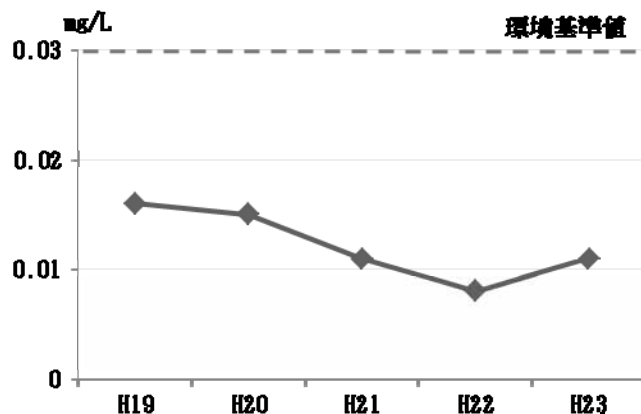


図 3 - 5 全亜鉛の状況 (高浜川)

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については30 で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については19 、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については7 である（表3 - 20 ）。

表3 - 20 水温の状況（高浜川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温（ ）			
			最高	平均	最小	N
高浜川 [C]	高浜橋	H23	30.0	18.3	6.5	12
		H22	31.0	19.3	6.6	12
		H21	27.5	19.0	7.1	12
		H20	30.0	19.4	8.5	12
		H19	29.6	18.4	8.0	12
		平均	29.6	18.9	7.3	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、水門が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

高浜川	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類（生物B）

高浜川	ボラ
-----	----

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

油ヶ淵合流部付近において、漁業権（コイ、フナ、ウナギ、ボラが対象）が設定されている。

魚類放流場所

魚類の放流はされていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、油ヶ淵漁業協同組合及び碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・高浜川では冷水性の魚類は生息していない。
- ・高浜川を含む油ヶ淵及び流入河川の代表的な種は、フナ、コイ、ナマズ、ウナギ、セイゴ（スズキ）、ボラ、モクズガニ、テナガエビなどである。
- ・高浜川を含む境川等水域では河川水が汚く、澄んでいないため、魚介類の産卵場や幼稚子の成育場は分かりづらい。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

3 - 6 新川

1 水域の概況

新川は、油ヶ淵から分派した後、碧南市浅間町地内で衣浦港に注ぐ、河川延長約 2.4 km、川幅約 40m の河川である。高潮対策事業で河道整備、災害関連事業で新川水門、新川樋門が整備された。河道はパラペット護岸で整備され、上流が有堤河道、中下流部が掘込河道である。背後には市街地が広がっている。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 3 - 2 1 のとおりである。

表 3 - 2 1 環境基準類型指定状況（新川）

水域名	区間	類型	環境基準点
新川	全域	C	水門橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD（75%値）は、平成 22 年度を除いた年度で環境基準を達成しており、4 mg/L 程度で推移している（表 3 - 2 2 ）。

表 3 - 2 2 (1) 近年の水質の状況（新川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)				pH			
			最小	～ 最大	平均	75%値	基準値	最小	～ 最大	基準値
新川 [C]	水門橋	H23	1.1	～ 5.2	2.4	2.6	5以下	6.9	～ 8.4	6.5 ～ 8.5
		H22	1.7	～ 9.3	4.4	5.2		7.2	～ 8.4	
		H21	0.9	～ 8.1	3.0	3.2		7.1	～ 8.0	
		H20	0.9	～ 8.9	3.2	3.1		7.0	～ 7.5	
		H19	2.0	～ 7.2	3.8	4.3		7.1	～ 8.2	
		平均	1.3	～ 7.7	3.4	3.7		7.1	～ 8.1	

表 3 - 2 2 (2) 近年の水質の状況 (新川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)			
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
新川 [C]	水門橋	H23	4.0	~	12	7.3	2	~	18	7	-	-	-	-
		H22	3.7	~	16	7.9	1	~	25	8	-	-	-	-
		H21	4.9	~	9.2	7.0	1	~	14	7	-	-	-	-
		H20	3.1	~	8.7	5.7	1	~	14	8	-	-	-	-
		H19	3.3	~	10	7.1	1	~	16	7	-	-	-	-
		平均	3.8	~	11	7.0	1	~	17	7	-	-	-	-

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を下回っていた (表 3 - 2 3)。

表 3 - 2 3 全亜鉛の状況 (新川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	最大	平均	N	
新川 [C]	水門橋	H23	0.008	~	0.036	0.020	12
		H22	0.006	~	0.058	0.024	12
		H21	0.007	~	0.094	0.027	12
		H20	0.014	~	0.033	0.022	4
		H19	0.014	~	0.021	0.017	4
		平均	0.010	~	0.048	0.022	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

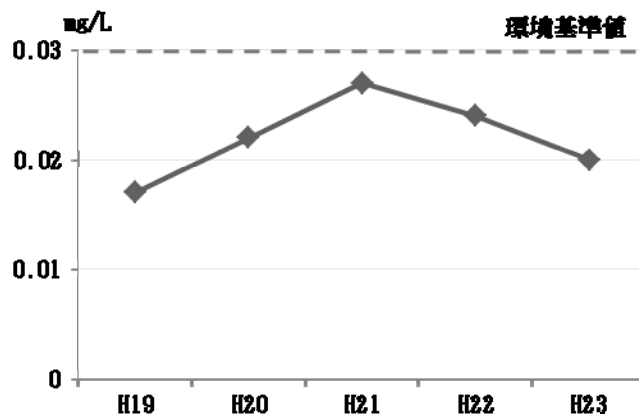


図 3 - 6 全亜鉛の状況 (新川)

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については30 で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については19 、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については7 である（表3 - 2 4 ）。

表3 - 2 4 水温の状況（新川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
新川 [C]	水門橋	H23	30.5	18.8	6.5	12
		H22	31.4	19.5	6.8	12
		H21	27.8	19.1	6.7	12
		H20	30.5	19.4	9.0	12
		H19	31.2	18.8	7.8	12
		平均	30.3	19.1	7.4	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、新川水門、新川樋門が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

新川	確認されていない
----	----------

温水性の魚介類（生物B）

新川	ボラ、テナガエビ
----	----------

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

油ヶ淵付近において、漁業権（コイ、フナ、ウナギ、ボラが対象）が設定されている。

魚類放流場所

魚類の放流はされていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、油ヶ淵漁業協同組合及び碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・新川では冷水性の魚類は生息していない。
- ・新川を含む油ヶ淵及び流入河川の代表的な種は、フナ、コイ、ナマズ、ウナギ、セイゴ（スズキ）、ボラ、モクズガニ、テナガエビなどである。
- ・新川を含む境川等水域では河川水が汚く、澄んでいないため、魚介類の産卵場や幼稚仔の成育場は分かりづらい。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

3 - 7 長田川

1 水域の概況

長田川は、碧南市湖西町地内で油ヶ淵に流入する、河川延長約 9.0km、川幅約 5 ~ 40m の河川である。河道は板柵及びコンクリート護岸で整備され、中上流部が掘込河道、下流部が有堤河道である。背後には上流部では市街地、中流部では農地、下流部では市街地及び農地が広がっている。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 3 - 2 5 のとおりである。

表 3 - 2 5 環境基準類型指定状況 (長田川)

水域名	区間	類型	環境基準点
長田川	全域	C	潭水橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD (75%値) は、全ての年度で環境基準を達成しており、3 mg/L 程度で推移している (表 3 - 2 6)。

表 3 - 2 6 (1) 近年の水質の状況 (長田川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)				pH		
			最小	最大	平均	75%値	基準値	最小 ~ 最大	基準値
長田川 [C]	潭水橋	H23	1.2	3.9	2.4	2.9	5以下	6.7 ~ 7.1	6.5 ~ 8.5
		H22	1.4	5.7	2.6	2.9		6.7 ~ 8.6	
		H21	1.4	4.3	2.4	3.0		6.7 ~ 7.0	
		H20	0.9	5.2	2.4	2.8		6.7 ~ 7.0	
		H19	1.6	6.4	3.5	4.3		6.7 ~ 8.0	
		平均	1.3	5.1	2.7	3.2		6.7 ~ 7.5	

表 3 - 2 6 (2) 近年の水質の状況 (長田川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)			SS (mg/L)			大腸菌群数 (MPN/100mL)				
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均
長田川 [C]	潭水橋	H23	6.2	10	7.5	5以上	4	30	11	50以下	-	-	-
		H22	5.5	12	7.7		2	25	10		-	-	
		H21	5.9	11	7.6		1	22	10		-	-	
		H20	5.8	9.5	7.5		4	34	15		-	-	
		H19	5.0	11	7.8		1	22	12		-	-	
		平均	5.7	11	7.6		2	27	12		-	-	

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03 mg/L 以下）を下回っていた（表3 - 27）。

表3 - 27 全亜鉛の状況（長田川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	~	最大	平均	N
長田川 [C]	潭水橋	H23	0.012	~	0.045	0.026	12
		H22	0.007	~	0.044	0.021	12
		H21	0.010	~	0.034	0.018	12
		H20	0.018	~	0.038	0.025	4
		H19	0.019	~	0.040	0.029	4
		平均	0.013	~	0.040	0.024	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

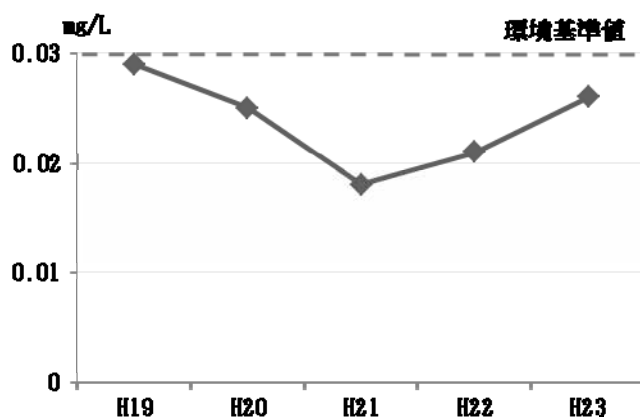


図3 - 7 全亜鉛の状況（長田川）

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については28 で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については18 、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については8 である（表3 - 28）。

表 3 - 2 8 水温の状況（長田川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
長田川 [C]	潭水橋	H23	29.0	18.0	6.3	12
		H22	30.5	18.5	7.0	12
		H21	25.5	17.7	7.2	12
		H20	27.5	18.6	10.0	12
		H19	27.5	18.2	10.5	12
		平均	28.0	18.2	8.2	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に砂または礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、落差工や護床工が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物 A）

長田川	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類（生物 B）

長田川	オイカワ、フナ類、コイ、ドジョウ、ナマズ、トウヨシノボリ、テナガエビ
-----	------------------------------------

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はされていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、油ヶ淵漁業協同組合及び碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・長田川では冷水性の魚類は生息していない。・長田川を含む油ヶ淵及び流入河川の代表的な種は、フナ、コイ、ナマズ、ウナギ、セイゴ（スズキ）、ボラ、モクスガニ、テナガエビなどである。
- ・長田川を含む境川等水域では河川水が汚く、澄んでいないため、魚介類の産卵場や幼稚仔の成育場は分かりづらい。
- ・魚介類の産卵場・幼稚仔の生育場は油ヶ淵に流入する河川の上流であると思うが、正確には分からない。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

3 - 8 半場川

1 水域の概況

半場川は、安城市赤松町地内で左支川東隅田川、根崎町地内で左支川朝鮮川を合わせ、東端町地内で油ヶ淵に流入する、河川延長約 8.0km、川幅約 5 ~ 40m の河川である。下渡瀬橋付近までの河道、赤松町地内の遊水地（約 2.4 万 m³）が完成している。また、河道は板柵護岸で整備され、中上流部が掘込河道、下流部が有堤河道である。背後には市街地及び農地が広がっている。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 3 - 29 のとおりである。

表 3 - 29 環境基準類型指定状況（半場川）

水域名	区間	類型	環境基準点
半場川	全域	C	坂下橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD（75%値）は、全ての年度で環境基準を達成しており、3 mg/L 程度で推移している（表 3 - 30）。

表 3 - 30(1) 近年の水質の状況（半場川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH		
			最小	最大	平均	75%値	基準値	最小	最大	基準値
半場川 [C]	坂下橋	H23	0.9	4.7	2.4	2.8	5以下	6.7	7.0	6.5 ~ 8.5
		H22	1.1	5.7	2.3	2.1		6.6	7.0	
		H21	1.4	3.9	2.3	2.8		6.8	7.1	
		H20	1.3	5.2	2.4	2.3		6.8	7.0	
		H19	1.3	6.2	2.9	3.2		6.8	7.1	
		平均	1.2	5.1	2.5	2.6		6.7	7.0	

表 3 - 30(2) 近年の水質の状況（半場川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)			
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
半場川 [C]	坂下橋	H23	5.3	12	8.1	5以上	1	42	12	50以下	-	-	-	
		H22	6.2	10	7.9		1	34	8		-	-		
		H21	6.3	10	8.4		2	17	10		-	-		
		H20	6.1	8.9	7.6		3	26	12		-	-		
		H19	5.4	11	7.9		2	31	8		-	-		
		平均	5.9	10	8.0		2	30	10		-	-		

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03 mg/L 以下）を下回っていた（表3 - 31）。

表3 - 31 全亜鉛の状況（半場川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	~	最大	平均	N
半場川 [C]	坂下橋	H23	0.008	~	0.048	0.021	12
		H22	0.006	~	0.017	0.012	12
		H21	< 0.001	~	0.030	0.012	12
		H20	< 0.001	~	0.019	0.011	4
		H19	0.011	~	0.030	0.017	4
		平均	0.005	~	0.029	0.015	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

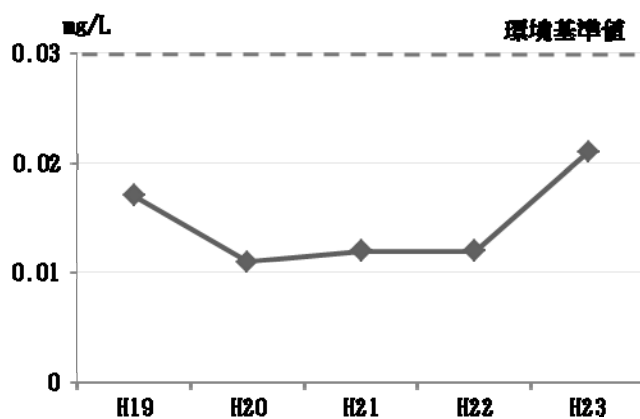


図3 - 8 全亜鉛の状況（半場川）

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については28 で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については17 、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については6 である（表3 - 3 2 ）。

表3 - 3 2 水温の状況（半場川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
半場川 [C]	坂下橋	H23	28.0	17.1	4.4	12
		H22	28.6	17.3	6.1	12
		H21	26.0	17.0	5.1	12
		H20	28.6	17.6	8.6	12
		H19	28.8	17.0	7.0	12
		平均	28.0	17.2	6.2	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に砂または礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、落差工や護床工が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

半場川	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類（生物B）

半場川	オイカワ、フナ類、コイ、ドジョウ、トウヨシノボリ、ウナギ、スジエビ
-----	-----------------------------------

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

油ヶ淵合流部付近において、漁業権（コイ、フナ、ウナギ、ボラが対象）が設定されている。

魚類放流場所

魚類の放流はされていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、油ヶ淵漁業協同組合及び碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・半場川では冷水性の魚類は生息していない。
- ・半場川を含む油ヶ淵及び流入河川の代表的な種は、フナ、コイ、ナマズ、ウナギ、セイゴ（スズキ）、ボラ、モクズガニ、テナガエビなどである。
- ・半場川を含む境川等水域では河川水が汚く、澄んでいないため、魚介類の産卵場や幼稚子の成育場は分かりづらい。
- ・魚介類の産卵場・幼稚子の生育場は油ヶ淵に流入する河川の上流であると思うが、正確には分からない。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

3 - 9 朝鮮川

1 水域の概況

朝鮮川は、半場川に合流する河川延長約 4.9km、流域面積 9.9km²、川幅約 5 ~ 30m の河川である。河道は板柵護岸で整備され、上流部が掘込河道、下流部が有堤河道である。背後には市街地及び農地が広がっている。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 3 - 3 3 のとおりである。

表 3 - 3 3 環境基準類型指定状況 (朝鮮川)

水域名	区間	類型	環境基準点
朝鮮川	全域	C	坂下小橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD (75% 値) は、全ての年度で環境基準を達成しており、3 mg/L 程度で推移している (表 3 - 3 4) 。

表 3 - 3 4 (1) 近年の水質の状況 (朝鮮川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH		
			最小	最大	平均	75% 値	基準値	最小	最大	基準値
朝鮮川 [C]	坂下小橋	H23	1.0	4.0	2.2	2.5	5以下	6.7	7.2	6.5 ~ 8.5
		H22	1.5	3.6	2.5	3.0		6.6	7.2	
		H21	1.0	3.2	2.2	2.8		6.7	8.6	
		H20	1.2	8.0	2.5	2.2		6.8	7.0	
		H19	1.9	5.1	3.1	3.7		6.8	7.4	
		平均	1.3	4.8	2.5	2.8		6.7	7.5	

表 3 - 3 4 (2) 近年の水質の状況 (朝鮮川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)			SS (mg/L)			大腸菌群数 (MPN/100mL)				
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均
朝鮮川 [C]	坂下小橋	H23	7.2	15	9.6	5以上	<1	39	11	50以下	-	-	-
		H22	7.4	16	10		<1	69	12		-	-	
		H21	7.6	19	9.8		<1	34	11		-	-	
		H20	7.2	12	9.1		1	34	11		-	-	
		H19	6.2	15	9.6		<1	50	10		-	-	
		平均	7.1	15	9.6		1	45	11		-	-	

備考 「 - 」 は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03 mg/L 以下）を坂下小橋では平成 19 年度、平成 20 年度及び平成 23 年度に上回っていたが、それ以外は下回っていた（表 3 - 3 5）。

表 3 - 3 5 全亜鉛の状況（朝鮮川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	～	最大	平均	N
朝鮮川 [C]	坂下小橋	H23	0.010	～	0.10	0.036	12
		H22	0.014	～	0.049	0.024	12
		H21	0.008	～	0.063	0.025	12
		H20	0.019	～	0.080	0.038	4
		H19	0.034	～	0.048	0.041	4
		平均	0.017	～	0.068	0.033	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

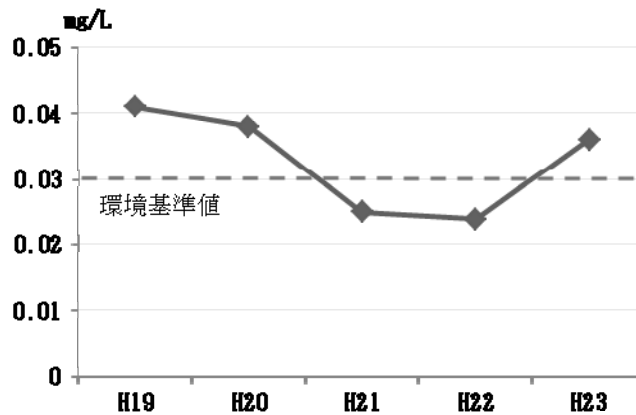


図 3 - 9 全亜鉛の状況（朝鮮川）

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 28 で、各年度の平均水温の最近 5 年間の平均値については 19 、各年度の最低水温の最近 5 年間の平均値については、10 である（表 3 - 3 6）。

表 3 - 3 6 水温の状況（朝鮮川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
朝鮮川 [C]	坂下小橋	H23	28.5	19.3	9.8	12
		H22	29.0	19.7	9.0	12
		H21	27.0	19.0	10.2	12
		H20	29.0	19.3	10.5	12
		H19	28.5	19.7	9.0	12
		平均	28.4	19.4	9.7	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に砂で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、落差工が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物 A）

朝鮮川	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類（生物 B）

朝鮮川	オイカワ、フナ類、コイ、ドジョウ、トウヨシノボリ、スジエビ
-----	-------------------------------

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はされていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、油ヶ淵漁業協同組合及び碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・朝鮮川では冷水性の魚類は生息していない。
- ・朝鮮川を含む油ヶ淵及び流入河川の代表的な種は、フナ、コイ、ナマズ、ウナギ、セイゴ（スズキ）、ボラ、モクズガニ、テナガエビなどである。
- ・朝鮮川を含む境川等水域では河川水が汚く、澄んでいないため、魚介類の産卵場や幼稚仔の成育場は分かりづらい。
- ・魚介類の産卵場・幼稚仔の生育場は油ヶ淵に流入する河川の上流であると思うが、正確には分からない。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

3 - 10 阿久比川

1 水域の概況

阿久比川は、水源を東浦町付近の丘陵地、雁狭間池に源を発し、草木川、福山川、前田川、矢勝川等の支川を合わせて衣浦湾に注ぐ、河川延長約 10.3km、流域面積約 30.8km²の二級河川である。流域は開発が進み、土砂流出が多い川である。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 3 - 37 のとおりである。

表 3 - 37 環境基準類型指定状況 (阿久比川)

水域名	区間	類型	環境基準点
阿久比川	全域	C	半田大橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD (75%値) は、全ての年度で環境基準を達成しており、2 mg/L 程度で推移している (表 3 - 38)。

表 3 - 38 (1) 近年の水質の状況 (阿久比川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)				pH			
			最小	最大	平均	75%値	基準値	最小	最大	基準値
阿久比川 [C]	半田大橋	H23	0.8	9.0	2.5	2.1	5以下	7.1	7.7	6.5 ~ 8.5
		H22	1.1	2.8	1.7	1.8		7.0	7.6	
		H21	0.8	3.5	1.7	1.8		7.0	7.7	
		H20	0.8	5.6	2.0	1.7		7.2	8.2	
		H19	0.7	25	4.0	2.6		7.2	7.8	
		平均	0.8	9.2	2.4	2.0		7.1	7.8	

表 3 - 38 (2) 近年の水質の状況 (阿久比川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)			SS (mg/L)			大腸菌群数 (MPN/100mL)				
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均
阿久比川 [C]	半田大橋	H23	2.5	10	6.3	5以上	3	45	11	50以下	-	-	-
		H22	5.3	9.3	7.0		3	18	8		-	-	
		H21	4.5	9.4	6.9		2	15	7		-	-	
		H20	4.7	9.1	6.7		2	87	15		-	-	
		H19	3.5	9.6	6.4		3	25	11		-	-	
		平均	4.1	9.5	6.7		3	38	10		-	-	

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03 mg/L 以下）を下回っていた（表3 - 39）。

表3 - 39 全亜鉛の状況（阿久比川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	~	最大	平均	N
阿久比川 [C]	半田大橋	H23	0.008	~	0.042	0.018	12
		H22	0.005	~	0.032	0.012	12
		H21	0.005	~	0.018	0.011	12
		H20	0.008	~	0.031	0.017	4
		H19	0.012	~	0.016	0.014	4
		平均	0.008	~	0.028	0.014	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

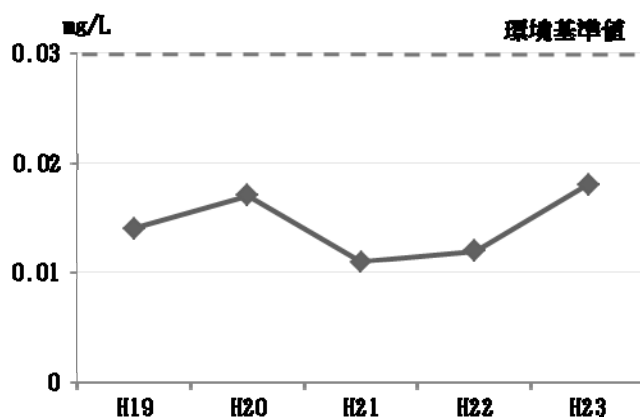


図3 - 10 全亜鉛の状況（阿久比川）

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については31 で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については19 、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については7 である（表3 - 40）。

表 3 - 4 0 水温の状況（阿久比川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
阿久比川 [C]	半田大橋	H23	30.5	18.7	6.0	12
		H22	31.0	18.9	7.0	12
		H21	30.0	19.6	5.5	12
		H20	32.5	19.4	9.0	12
		H19	33.0	19.5	9.2	12
		平均	31.4	19.2	7.3	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に砂または礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、落差工や護床工が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物 A）

阿久比川	確認されていない
------	----------

温水性の魚介類（生物 B）

阿久比川	オイカワ、フナ類、コイ、ドジョウ、ナマズ、トウヨシノボリ、ボラ、スジエビ、テナガエビ
------	--

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はされていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・阿久比川では冷水性の魚類は生息していない。
- ・阿久比川を含む境川等水域では水が汚く、澄んでいないため、魚介類の産卵場や幼稚子の成育場は分かりづらい。
- ・阿久比川は比較的魚類が多く、昔はホトケドジョウがいたと聞いている。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

3 - 1 1 油ヶ淵

1 水域の概況

油ヶ淵は、高浜川の上流に位置し、周囲約 6.3km、面積約 64ha の湖沼で、背後には農地が広がっている。高潮対策事業による築堤盛土は、新川の曳船橋付近を残して完了している。浄化を目的とした河川環境整備事業による湖内の浚渫は概ね完成し、現在は覆砂等を実施中である。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 3 - 4 1 のとおりである。

表 3 - 4 1 環境基準類型指定状況 (油ヶ淵)

水域名	区間	類型	環境基準点
油ヶ淵	全域	湖沼 B	中央

(2) 水質汚濁の状況

COD (75%値) は、全ての年度で環境基準を超過しており、8 mg/L 程度で推移している (表 3 - 4 2)。

表 3 - 4 2 (1) 近年の水質の状況 (油ヶ淵)

水域名 [類型]	調査地点	年度	COD (mg/L)				pH			
			最小	最大	平均	75%値	基準値	最小	最大	基準値
油が淵 [湖沼B]	中央	H23	6.8	9.2	6.8	7.6	5以下	6.6	9.6	6.5 ~ 8.5
		H22	6.6	8.5	6.6	7.0		6.8	9.7	
		H21	5.8	7.2	5.8	6.6		6.8	8.4	
		H20	6.7	10	6.7	7.6		6.6	9.0	
		H19	7.5	11	7.5	9.0		6.7	9.3	
		平均	6.7	9.2	6.7	7.6		6.7	9.2	

表 3 - 4 2 (2) 近年の水質の状況 (油ヶ淵)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)			SS (mg/L)			大腸菌群数 (MPN/100mL)				
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均
油が淵 [湖沼B]	中央	H23	3.7	16	10	5以上	3	34	16	15以下	-	-	-
		H22	4.6	17	10		3	28	13		-	-	
		H21	5.5	15	9.6		1	26	11		-	-	
		H20	3.6	15	9.0		2	33	14		-	-	
		H19	5.0	17	11		2	29	12		-	-	
		平均	4.5	16	10		2	30	13		-	-	

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03 mg/L 以下）を下回っていた（表3 - 43）。

表3 - 43 全亜鉛の状況（油ヶ淵）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	～	最大	平均	N
油が淵 [湖沼B]	中央	H23	0.009	～	0.039	0.022	4
		H22	0.007	～	0.031	0.014	4
		H21	0.006	～	0.019	0.011	4
		H20	0.015	～	0.028	0.018	4
		H19	0.012	～	0.022	0.015	4
		平均	0.010	～	0.028	0.016	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

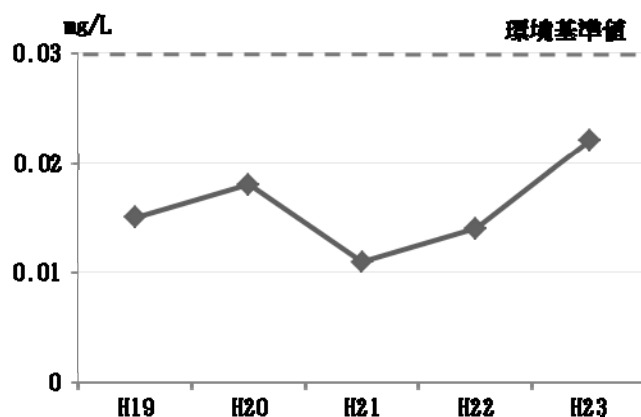


図3 - 11 全亜鉛の状況（油ヶ淵）

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については30 で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については17、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については6 である（表3 - 44）。

表 3 - 4 4 水温の状況（油ヶ淵）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
油ヶ淵 [湖沼B]	中央	H23	30.1	17.9	4.9	24
		H22	27.6	13.1	5.7	24
		H21	29.5	18.6	6.0	24
		H20	31.7	18.7	7.0	24
		H19	29.5	17.9	6.1	24
		平均	29.7	17.2	5.9	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に泥または砂で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、大きな河川構造物は設置されていない。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

油ヶ淵	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類（生物B）

油ヶ淵	オイカワ、フナ類、コイ、トウヨシノボリ、ボラ、テナガエビ
-----	------------------------------

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

油ヶ淵において、漁業権（コイ、フナ、ウナギ、ボラが対象）が設定されている。

魚類放流場所

油ヶ淵漁業協同組合により、油ヶ淵下池においてフナ、ウナギ及びシラスウナギが放流されている。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、油ヶ淵漁業協同組合及び碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・油ヶ淵では冷水性の魚類は生息していない。
- ・油ヶ淵及び流入河川の代表的な種は、フナ、コイ、ナマズ、ウナギ、セイゴ（スズキ）、ボラ、モクズガニ、テナガエビなどである。特に、セイゴ（スズキ）、ボラは油ヶ淵湖内で多い。
- ・油ヶ淵を含む境川等水域では河川水が汚く、澄んでいないため、魚介類の産卵場や幼稚仔の成育場は分かりづらい。
- ・魚介類の産卵場・幼稚仔の生育場は油ヶ淵に流入する河川の上流であると思うが、正確には分からない。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

4 豊川等水域

4 - 1 豊川

1 水域の概況

豊川は、その源を愛知県北設楽郡設楽町の段戸山(標高 1,152m)に発し、山間渓谷を流れ、宇連川を合わせ、豊川市行明で豊川放水路を分派し、豊橋市内を流れ、三河湾に注ぐ、幹川流路延長 77km、流域面積 724km² の一級河川である。河口から新城橋までの 27.6km を国土交通大臣、それ以外の区間を愛知県知事が管理している。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 4 - 1 のとおりである。

表 4 - 1 環境基準類型指定状況 (豊川)

水域名	区間	類型	環境基準点
豊川上流	宇連川合流点より上流	AA	長篠橋
豊川中流	宇連川合流点から 豊橋市下条上水道取水地点まで	A	江島橋
豊川下流	下条上水道取水地点より下流	B	吉田大橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD (75%値) は、全ての地点及び年度で環境基準を達成しており、1 mg/L 程度で推移している (表 4 - 2)。

表 4 - 2 (1) 近年の水質の状況 (豊川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)				基準値	pH		
			最小	~ 最大	平均	75%値		最小	~ 最大	基準値
豊川上流 [AA]	出合橋	H23	< 0.5	~ 0.8	0.5	< 0.5	1以下	6.4	~ 7.5	6.5 ~ 8.5
		H22	< 0.5	~ 0.9	0.6	< 0.5		6.5	~ 8.1	
		平均	< 0.5	~ 0.9	0.6	< 0.5		6.5	~ 7.8	
	長篠橋	H23	< 0.5	~ 1.0	0.6	< 0.5		6.3	~ 7.2	
		H22	< 0.5	~ 0.7	0.5	< 0.5		6.6	~ 7.8	
		H21	< 0.5	~ 4.6	1.0	0.7		6.5	~ 7.6	
		H20	< 0.5	~ 0.7	0.6	0.6		6.5	~ 6.9	
		H19	< 0.5	~ 1.1	0.7	0.8		6.5	~ 7.3	
平均	0.5	~ 1.6	0.7	0.6	6.5	~ 7.4				
豊川中流 [A]	牛淵橋	H23	< 0.5	~ 0.8	0.5	0.5	2以下	6.8	~ 7.8	6.5 ~ 8.5
		H22	< 0.5	~ 0.6	0.5	< 0.5		6.8	~ 8.3	
		H21	< 0.5	~ 0.7	0.5	0.6		7.2	~ 8.1	
		H20	< 0.5	~ 1.2	0.7	0.8		7.5	~ 7.9	
		H19	< 0.5	~ 1.3	0.7	0.7		7.3	~ 7.8	
		平均	0.5	~ 0.9	0.6	0.6		7.1	~ 8.0	
	石田	H23	< 0.5	~ 1.4	0.6	0.5		7.3	~ 7.7	
		H22	< 0.5	~ 1.3	0.7	0.8		7.3	~ 7.8	
		H21	0.5	~ 1.0	0.7	0.8		7.4	~ 7.7	
		H20	< 0.5	~ 1.6	1.0	1.1		7.3	~ 7.7	
		H19	< 0.5	~ 1.0	0.8	0.9		7.3	~ 7.7	
		平均	0.5	~ 1.3	0.8	0.8		7.3	~ 7.7	
	江島橋	H23	< 0.5	~ 1.9	0.7	0.6		7.3	~ 8.5	
		H22	< 0.5	~ 0.9	0.6	0.7		7.4	~ 8.0	
		H21	< 0.5	~ 1.1	0.7	0.7		7.5	~ 7.9	
		H20	0.6	~ 1.4	1.0	1.1		7.4	~ 7.7	
		H19	0.6	~ 1.5	0.9	1.1		7.3	~ 7.9	
		平均	0.5	~ 1.4	0.8	0.8		7.4	~ 8.0	
	当古橋	H23	< 0.5	~ 1.1	0.6	0.7		7.0	~ 7.9	
		H22	< 0.5	~ 0.9	0.6	0.7		7.1	~ 7.9	
H21		< 0.5	~ 0.9	0.7	0.9	7.3	~ 7.8			
H20		0.6	~ 1.4	1.0	1.0	7.1	~ 7.5			
H19		0.5	~ 2.1	0.9	1.0	7.0	~ 7.8			
平均		0.5	~ 1.3	0.8	0.9	7.1	~ 7.8			
豊川下流 [B]	吉田大橋	H23	< 0.5	~ 1.5	0.7	0.9	3以下	7.0	~ 7.6	6.5 ~ 8.5
		H22	< 0.5	~ 1.8	0.7	0.9		7.0	~ 7.5	
		H21	< 0.5	~ 1.4	0.8	0.9		7.1	~ 7.8	
		H20	< 0.5	~ 2.0	1.1	1.2		6.8	~ 7.5	
		H19	0.6	~ 2.1	1.1	1.3		6.8	~ 7.7	
		平均	0.5	~ 1.8	0.9	1.0		6.9	~ 7.6	

表 4 - 2 (2) 近年の水質の状況 (豊川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)			
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
豊川上流 [AA]	出合橋	H23	8.7	13	10	7.5以上	<1	1	1	25以下	-	-	50以下	
		H22	8.4	14	11		<1	4	1		-	-		
		平均	8.6	14	11		<1	3	1		-	-		
	長篠橋	H23	9.1	13	10		<1	1	1		18	1700		420
		H22	8.3	13	11		<1	1	1		45	3300		850
		H21	8.9	12	11		<1	4	1		45	5400		1300
		H20	8.1	13	10		<1	5	2		78	7000		2000
		H19	8.5	13	11		<1	4	1		68	7000		1300
平均	8.6	13	11	<1	3	1	51	4880	1174					
豊川中流 [A]	牛淵橋	H23	8.4	13	10	<1	2	1	330	24000	5900			
		H22	8.3	13	11	<1	4	1	79	7900	3400			
		H21	6.9	10	8.4	<1	3	2	120	9600	3200			
		H20	8.1	13	10	<1	9	3	110	3500	1500			
		H19	8.3	13	10	<1	3	1	330	14000	5500			
		平均	8.0	12	9.9	<1	4	2	194	11800	3900			
	石田	H23	8.4	13	10	<1	3	1	490	7900	2600			
		H22	9.0	13	11	<1	2	1	330	2400	1800			
		H21	8.1	12	9.8	<1	2	1	540	2800	1800			
		H20	7.9	13	10	<1	2	1	700	1600	1100			
		H19	7.5	13	9.9	<1	2	1	700	9200	3600			
		平均	8.2	13	10	<1	2	1	552	4780	2180			
	江島橋	H23	9.2	13	11	<1	2	1	79	7900	2500			
		H22	9.2	14	11	<1	2	1	220	4900	2000			
		H21	9.1	13	11	<1	1	1	130	2400	720			
		H20	8.5	13	10	<1	3	1	110	9200	1700			
		H19	8.1	13	10	<1	3	1	33	5400	1400			
		平均	8.8	13	11	<1	2	1	114	5960	1664			
	当古橋	H23	9.1	13	11	<1	6	2	330	3300	1300			
		H22	8.2	14	10	<1	1	1	49	3300	1500			
H21		9.7	13	11	<1	1	1	350	920	490				
H20		8.3	13	10	<1	4	2	240	3500	1300				
H19		6.1	12	9.7	<1	4	1	400	17000	5400				
平均		8.3	13	10	<1	3	1	274	5604	1998				
豊川下流 [B]	吉田大橋	H23	7.1	12	9.7	<1	10	3	220	13000	5100			
		H22	6.6	13	9.5	<1	6	2	240	13000	4700			
		H21	6.8	12	9.4	1	7	3	170	5400	1900			
		H20	6.6	12	9.1	1	10	4	350	22000	3800			
		H19	6.7	12	8.8	<1	8	2	49	13000	3700			
		平均	6.8	12	9.3	1	8	3	206	13280	3840			

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を下回っていた (表4 - 3)。

表 4 - 3 全亜鉛の状況 (豊川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	~	最大	平均	N
豊川上流 [AA]	出合橋	H23	< 0.001	~	0.002	0.001	12
		H22	< 0.001	~	0.004	0.002	12
		平均	< 0.001	~	0.003	0.002	-
	長篠橋	H23	< 0.001	~	0.002	0.001	12
		H22	< 0.001	~	0.004	0.002	12
		H21	< 0.001	~	0.006	0.002	12
		H20	< 0.001	~	0.001	0.001	4
		H19	< 0.001	~	0.005	0.002	4
		平均	0.001	~	0.004	0.002	-
	豊川中流 [A]	石田	H23	< 0.001	~	0.003	0.002
H22			< 0.001	~	0.002	0.001	4
H21			< 0.001	~	< 0.001	< 0.001	4
H20			0.003	~	0.025	0.009	4
H19			< 0.001	~	< 0.001	< 0.001	4
平均			0.001	~	0.006	0.003	-
江島橋		H23	< 0.001	~	0.007	0.003	12
		H22	< 0.001	~	0.004	0.002	12
		H21	< 0.001	~	0.001	0.001	12
		H20	< 0.001	~	0.007	0.002	12
		H19	< 0.001	~	0.009	0.002	12
		平均	0.001	~	0.006	0.002	-
当古橋		H23	< 0.001	~	0.011	0.004	4
		H22	0.001	~	0.001	0.001	4
		H21	< 0.001	~	0.002	0.001	4
		H20	< 0.001	~	0.005	0.002	4
		H19	< 0.001	~	0.001	0.001	4
		平均	0.001	~	0.004	0.002	-
豊川下流 [B]	吉田大橋	H23	0.001	~	0.014	0.005	12
		H22	0.001	~	0.010	0.003	10
		H21	< 0.001	~	0.004	0.002	12
		H20	< 0.001	~	0.028	0.004	12
		H19	< 0.001	~	0.013	0.004	12
		平均	0.001	~	0.014	0.004	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

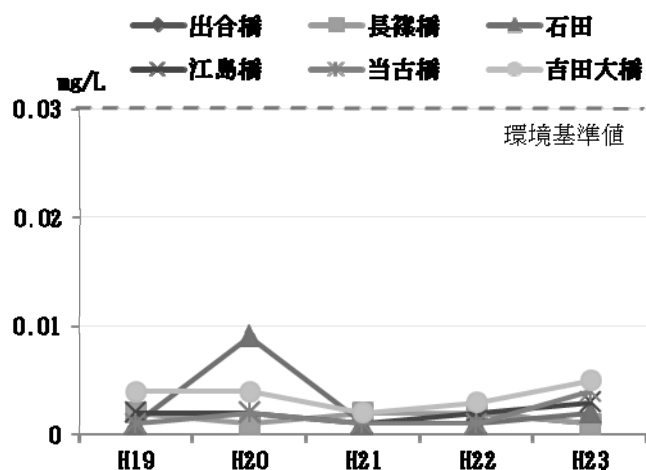


図4 - 1 全亜鉛の状況（豊川）

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については、「豊川上流」では20～26、「豊川中流」では25～26程度、「豊川下流」では28である。各年度の平均水温の最近5年間の平均値については、「豊川上流」では12～15、「豊川中流」では15～16程度、「豊川下流」では17である。各年度の最低水温の最近5年間の平均値については、「豊川上流」では3～5、「豊川中流」では4～6程度、「豊川下流」では6である（表4 - 4）。

表 4 - 4 (1) 水温の状況 (豊川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
豊川上流 [AA]	大名倉橋	H23	21.0	12.0	3.5	12
		H22	18.4	10.6	1.0	12
		H21	18.6	11.8	3.5	12
		H20	19.5	11.9	3.1	12
		H19	21.6	11.8	3.5	12
		平均	19.8	11.6	2.9	-
	鶴淵	H23	21.5	12.2	3.5	12
		H22	20.7	12.2	1.7	12
		H21	21.6	12.3	2.6	12
		H20	20.3	12.5	2.3	12
		H19	23.2	12.9	3.8	12
		平均	21.5	12.4	2.8	-
	出合橋	H23	23.6	13.9	3.1	12
		H22	25.7	14.2	2.7	12
		平均	24.7	14.0	2.9	-
	布里堰堤	H23	24.8	14.4	4.7	12
		H22	22.9	13.6	3.4	12
		H21	24.6	15.0	5.3	6
		H20	22.6	14.2	5.3	6
		H19	21.2	12.8	4.1	6
		平均	23.2	14.0	4.6	-
	長篠橋	H23	24.9	14.7	4.3	12
		H22	26.8	14.7	3.4	12
		H21	24.7	15.0	4.3	12
		H20	27.5	15.0	4.1	12
		H19	25.0	14.8	4.8	12
		平均	25.8	14.8	4.2	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

「大名倉橋」、「鶴淵」、「布里堰堤」については国土交通省中部地方整備局
設楽ダム工事事務所の測定データ

表 4 - 4 (2) 水温の状況 (豊川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
豊川中流 [A]	牛淵橋	H23	25.0	15.2	3.5	12
		H22	27.0	15.5	3.0	12
		H21	24.7	15.5	4.6	12
		H20	27.3	15.0	3.5	12
		H19	25.5	15.3	5.0	12
		平均	25.9	15.3	3.9	-
	石田	H23	26.0	15.6	4.5	12
		H22	24.7	14.8	3.7	12
		H21	24.0	15.0	3.8	12
		H20	23.9	14.9	4.6	12
		H19	26.7	15.2	3.6	12
		平均	25.1	15.1	4.0	-
	江島橋	H23	28.5	16.4	5.0	12
		H22	26.0	15.6	4.3	12
		H21	25.5	16.0	3.6	12
		H20	24.8	15.7	5.8	12
		H19	27.9	16.4	5.7	12
		平均	26.5	16.0	4.9	-
	当古橋	H23	28.0	16.6	6.0	12
		H22	26.2	15.8	4.7	12
		H21	25.0	16.2	4.3	12
H20		25.3	15.8	6.3	12	
H19		27.2	16.8	6.7	12	
平均		26.3	16.2	5.6	-	
豊川下流 [B]	吉田大橋	H23	27.3	17.0	6.3	24
		H22	26.4	16.9	5.0	24
		H21	27.1	17.1	5.3	24
		H20	28.4	16.9	5.9	24
		H19	29.9	17.4	5.9	24
		平均	27.8	17.0	5.7	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、上流側ではほとんど石または礫ないしは岩盤で構成されているが、新城市桜淵付近より下流側では主に石で構成され、吉田大橋より下流では主に砂で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、豊川では、河口から約 26km に牟呂松原頭首工があるほか、宇連川合流点より上流側に長篠堰堤、寒狭川頭首工、横川堰堤、布里堰堤などのダムや堰が設置されている。なお、牟呂松原頭首工、寒狭川頭首工及び横川堰堤には魚道が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

豊川上流	アマゴ（長篠橋、地獄、鶴淵、大名倉地区、澄川合流）
豊川中流	サツキマス（牟呂松原頭首工）
豊川下流	確認されていない

温水性の魚介類（生物B）

豊川上流	ウグイ、オイカワ、フナ類、コイ、ヨシノボリ類、ウナギ
豊川中流	ウグイ、オイカワ、フナ類、コイ、ドジョウ、ナマズ、ウナギ、ボラ、テナガエビ、モクズガニ
豊川下流	ウグイ、フナ類、コイ、ドジョウ、ウナギ、ボラ、テナガエビ

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

吉田大橋（豊川下流水域の環境基準点）よりも上流で漁業権（アマゴ、ニジマス、コイ、フナ、オイカワ、ウグイ、ウナギ、ボラ、テナガエビ、アユ）が設定されている。

魚類放流場所

布里堰堤から上流でアマゴを、当貝津川合流点から上流でヤマメを、長篠大橋付近及び布里堰堤下流付近でウナギを、松戸橋下流付近及び吉田大橋から当貝津川合流点まででアユを放流している。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、豊川上漁業協同組合、寒狭川下漁業協同組合、寒狭川中部漁業協同組合、寒狭川上流漁業協同組合、赤塚山公園ぎょぎょランド、愛知県水産試験場内水面漁業研究所からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・ 豊川最上流部ではイワナが生息している。
- ・ アマゴは布里堰堤付近より上流で生息しており、再生産している。
- ・ 降海したサツキマスの遡上は鮎滝（長篠堰堤の下流）までである。
- ・ 漁獲対象種としては、布里堰堤よりも上流ではアマゴ、アユ、布里堰堤より下流ではコイ、ウナギ、オイカワ、アユ。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物 A 及び生物 B の魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

4 - 2 宇連川

1 水域の概況

宇連川は、北設楽郡設楽町南東部の山中に源を発し、宇連ダムを経て南西へ流下し、新城市長篠付近で豊川に合流する、全長約 20km、流域面積約 176km² の一級河川である（県知事が管理）。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 4 - 5 のとおりである。

表 4 - 5 環境基準類型指定状況（宇連川）

水域名	区間	類型	環境基準点
宇連川	全域	AA	鳳来橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD(75%値)は、全ての地点及び年度で環境基準を達成しており、1 mg/L 未満で推移している（表 4 - 6）。

表 4 - 6 (1) 近年の水質の状況（宇連川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH		
			最小	最大	平均	75%値	基準値	最小	最大	基準値
宇連川 [AA]	鳳来湖	H23	< 0.5	~ 0.7	0.5	< 0.5	1以下	6.7	~ 7.7	6.5 ~ 8.5
		H22	< 0.5	~ 1.7	0.6	< 0.5		6.6	~ 7.4	
		H21	< 0.5	~ 1.0	0.6	0.5		6.9	~ 7.3	
		H20	< 0.5	~ 0.9	0.7	0.8		7.3	~ 7.8	
		H19	< 0.5	~ 1.1	0.7	0.7		7.1	~ 7.8	
		平均	0.5	~ 1.1	0.6	0.6		6.9	~ 7.6	
	鳳来橋	H23	< 0.5	~ 0.7	0.5	< 0.5		6.3	~ 8.0	
		H22	< 0.5	~ 1.6	0.7	< 0.5		6.6	~ 7.7	
		H21	< 0.5	~ 2.5	0.9	0.8		6.4	~ 7.5	
		H20	< 0.5	~ 1.7	0.7	0.6		6.6	~ 7.1	
		H19	< 0.5	~ 1.0	0.6	0.5		6.5	~ 7.4	
		平均	0.5	~ 1.5	0.7	0.6		6.5	~ 7.5	
	大野 頭首工	H23	< 0.5	~ 0.5	0.5	0.5		6.9	~ 7.6	
		H22	< 0.5	~ 0.7	0.5	< 0.5		6.7	~ 7.7	
		H21	< 0.5	~ 0.8	0.6	0.6		7.0	~ 7.3	
		H20	< 0.5	~ 0.9	0.7	0.8		7.2	~ 7.8	
		H19	< 0.5	~ 1.1	0.7	0.7		7.2	~ 7.6	
		平均	0.5	~ 0.8	0.6	0.6		7.0	~ 7.6	

表 4 - 6 (2) 近年の水質の状況 (宇連川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)			
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
宇連川 [AA]	鳳来湖	H23	7.5	~	11	8.8	<1	~	1	1	5	~	110	61
		H22	7.5	~	12	9.4	<1	~	2	1	2	~	790	220
		H21	6.4	~	9.7	7.7	<1	~	2	1	13	~	380	91
		H20	7.7	~	11	9.2	<1	~	1	1	5	~	140	48
		H19	7.9	~	11	9.6	<1	~	8	2	2	~	2400	4000
		平均	7.4	~	11	8.9	<1	~	3	1	5	~	5084	884
	鳳来橋	H23	8.5	~	11	9.9	<1	~	2	1	20	~	490	210
		H22	8.4	~	12	10	<1	~	2	1	68	~	1300	520
		H21	8.7	~	12	10	<1	~	3	1	45	~	1300	350
		H20	8.6	~	12	10	<1	~	3	1	45	~	7900	1600
		H19	8.8	~	12	10	<1	~	3	1	68	~	4900	900
		平均	8.6	~	12	10.0	<1	~	3	1	49	~	3178	716
	大野 頭首工	H23	7.8	~	12	9.6	<1	~	2	1	130	~	4900	11000
		H22	8.0	~	12	9.7	<1	~	3	1	33	~	7900	2200
		H21	6.3	~	9.8	8.0	<1	~	1	1	690	~	11000	3800
		H20	8.5	~	11	9.8	<1	~	5	2	220	~	5400	1600
		H19	8.0	~	12	10	<1	~	3	1	790	~	35000	7000
		平均	7.7	~	11	9.4	<1	~	3	1	373	~	21660	5120

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を大野頭首工では平成 22 年度に上回っていたが、それ以外は下回っていた (表 4 - 7)。

表 4 - 7 全亜鉛の状況 (宇連川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	最大	平均	N	
宇連川 [AA]	鳳来橋	H23	< 0.001	~	0.003	0.001	12
		H22	< 0.001	~	0.005	0.002	12
		H21	< 0.001	~	0.005	0.003	12
		H20	< 0.001	~	0.002	0.001	4
		H19	< 0.001	~	0.001	0.001	4
		平均	< 0.001	~	0.003	0.002	-
	大野 頭首工	H23	< 0.001	~	0.002	0.001	12
		H22	0.007	~	0.10	0.037	12
		平均	0.004	~	0.051	0.019	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

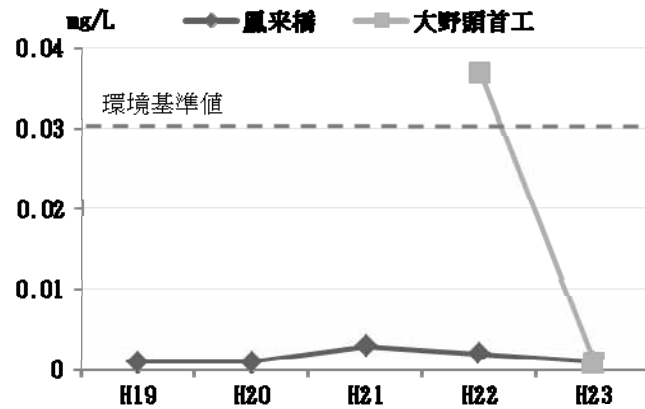


図 4 - 2 全亜鉛の状況 (宇連川)

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 22～29 程度で、各年度の平均水温の最近 5 年間の平均値については 15～18 程度、各年度の最低水温の最近 5 年間の平均値については、5～7 程度である (表 4 - 8)。

表 4 - 8 水温の状況 (宇連川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
宇連川 [AA]	鳳来湖	H23	28.0	18.0	6.5	12
		H22	30.5	17.8	3.0	12
		H21	27.3	17.5	6.0	12
		H20	30.5	19.1	9.5	12
		H19	28.0	17.8	5.5	12
		平均	28.9	18.0	6.1	-
	鳳来橋	H23	23.5	15.5	7.6	12
		H22	24.0	15.8	6.7	12
		H21	24.3	15.2	6.5	12
		H20	24.2	15.2	6.6	12
		H19	22.6	15.0	6.0	12
		平均	23.7	15.3	6.7	-
	大野頭首工	H23	22.0	15.4	6.0	12
		H22	23.7	15.3	4.5	12
		H21	21.3	14.6	5.7	12
		H20	21.6	15.0	5.9	12
		H19	21.0	14.7	5.0	12
		平均	21.9	15.0	5.4	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

鳳来湖の調査地点は河川でなく湖である。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に岩盤や石で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、大野頭首工と宇連ダムが設置されている。大野頭首工には魚道が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

宇連川	アマゴ（宮下橋、鳳来橋）
-----	--------------

温水性の魚介類（生物B）

宇連川	ウグイ、オイカワ、フナ類、コイ、ドジョウ、ナマズ、トウヨシノボリ、ウナギ、スジエビ
-----	---

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

宇連川全域で漁業権（アマゴ、ニジマス、コイ、フナ、オイカワ、ウナギ、アユ）が設定されている。

魚類放流場所

養乙女橋上流付近でアマゴを放流している。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、宇連川漁業協同組合、三輪川下漁業協同組合、赤塚山公園ぎょぎょランド、愛知県水産試験場内水面漁業研究所からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- ・アマゴの生息下限は養乙女橋であり、それよりも上流で再生産している。
- ・降海したサツキマスの遡上は大野頭首工までである。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物 A 及び生物 B の魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

4 - 3 豊川放水路

1 水域の概況

豊川放水路は、豊橋市行明において、豊川より分派し、豊橋市と豊川市、宝飯郡小坂井町を流れて三河湾に注ぐ延長約7kmの一級河川である（国土交通大臣が管理）。豊川本川下流部の治水対策のための放水路として建設され、昭和40年度に完成した。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

豊川放水路における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表4-9のとおりである。

表4-9 環境基準類型指定状況（豊川放水路）

水域名	区間	類型	環境基準点
豊川放水路	全域	C	小坂井大橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD（75%値）は、全ての年度で環境基準を達成しており、2 mg/L程度で推移している（表4-10）。

表4-10(1) 近年の水質の状況（豊川放水路）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH		
			最小	最大	平均	75%値	基準値	最小	最大	基準値
豊川 放水路 [C]	小坂井 大橋	H23	< 0.5	~ 5.2	1.4	1.5	5以下	7.0	~ 7.9	6.5 ~ 8.5
		H22	0.7	~ 10	2.2	2.2		7.1	~ 8.4	
		H21	0.6	~ 3.1	1.6	2.1		7.1	~ 8.1	
		H20	0.8	~ 11	3.2	2.9		7.1	~ 8.8	
		H19	0.9	~ 42	5.4	2.7		6.9	~ 7.9	
		平均	0.7	~ 14	2.8	2.3		7.0	~ 8.2	

表4-10(2) 近年の水質の状況（豊川放水路）

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)			
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
豊川 放水路 [C]	小坂井 大橋	H23	7.5	~ 12	9.4	5以上	1	~ 40	7	50以下	-	-	-	
		H22	3.7	~ 15	9.4		1	~ 21	8		-	-		
		H21	6.1	~ 14	8.7		1	~ 13	6		-	-		
		H20	3.6	~ 18	8.8		1	~ 27	5		-	-		
		H19	5.3	~ 15	8.8		1	~ 95	11		-	-		
		平均	5.2	~ 15	9.0		1	~ 39	7		-	-		

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03 mg/L 以下）を下回っていた（表4 - 11）。

表4 - 11 全亜鉛の状況（豊川放水路）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	～	最大	平均	N
豊川放水路 [C]	小坂井 大橋	H23	0.002	～	0.023	0.008	12
		H22	0.003	～	0.017	0.005	12
		H21	< 0.001	～	0.016	0.006	12
		H20	0.002	～	0.012	0.006	12
		H19	0.002	～	0.031	0.009	12
		平均	0.002	～	0.020	0.007	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

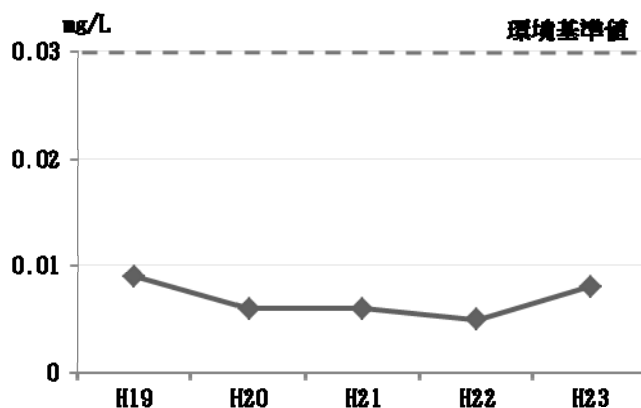


図4 - 3 全亜鉛の状況（豊川放水路）

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については30 で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については18、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については6 である（表4 - 12）。

表 4 - 1 2 水温の状況（豊川放水路）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
豊川 放水路 [C]	小坂井 大橋	H23	30.0	18.1	6.5	12
		H22	30.3	18.3	5.1	12
		H21	30.9	18.9	5.2	12
		H20	30.7	18.5	5.1	12
		H19	28.0	18.3	6.9	12
		平均	30.0	18.4	5.8	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に石や砂で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、豊川との分流点に分流堰が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物 A）

豊川放水路	確認されていない
-------	----------

温水性の魚介類（生物 B）

豊川放水路	ウナギ、ボラ、テナガエビ
-------	--------------

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はしていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況に関する情報は得られなかった。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物 A 及び生物 B の魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

4 - 4 音羽川

1 水域の概況

音羽川は、その源を旧音羽町（現在の豊川市）の五井山に発し、谷水を合わせながら東流した後、山陰川を合わせ流向を南に転じ、白川と合流した後、三河湾に注ぐ法河川延長約 12km、流域面積約 64km²の二級河川である（県知事が管理）。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 4 - 1 3 のとおりである。

表 4 - 1 3 環境基準類型指定状況（音羽川）

水域名	区間	類型	環境基準点
音羽川	全域	C	剣橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD（75%値）は、環境基準を達成しており、1 mg/L 程度で推移している（表 4 - 1 4）。

表 4 - 1 4 (1) 近年の水質の状況（音羽川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH				
			最小	~	最大	平均	75%値	基準値	最小	~	最大	基準値
音羽川 [C]	剣橋	H23	< 0.5	~	1.5	1.0	1.3	5以下	6.5	~	7.6	6.5 ~ 8.5
		H22	< 0.5	~	1.5	0.8	0.9		6.4	~	7.7	
		H21	< 0.5	~	1.7	0.9	1.0		7.0	~	7.9	
		H20	< 0.5	~	3.4	1.1	1.3		6.3	~	6.9	
		H19	0.6	~	3.5	1.7	1.7		6.2	~	8.6	
		平均	0.5	~	2.3	1.1	1.2		6.5	~	7.7	

表 4 - 1 4 (2) 近年の水質の状況 (音羽川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)			
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
音羽川 [C]	剣橋	H23	7.9	~	13	10	<1	~	9	3	-	-	-	-
		H22	7.8	~	14	10	<1	~	9	2	-	-	-	-
		H21	7.2	~	11	8.9	2	~	13	5	-	-	-	-
		H20	7.7	~	13	10	3	~	11	6	-	-	-	-
		H19	8.3	~	16	11	1	~	20	6	-	-	-	-
		平均	7.8	~	13	10.0	2	~	12	4	-	-	-	-

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物 A」・「生物 B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を下回っていた (表 4 - 1 5)。

表 4 - 1 5 全亜鉛の状況 (音羽川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	最大	平均	N	
音羽川 [C]	剣橋	H23	0.002	~	0.006	0.004	12
		H22	0.002	~	0.016	0.006	12
		H21	0.003	~	0.013	0.006	12
		H20	0.002	~	0.010	0.005	4
		H19	0.002	~	0.005	0.003	4
		平均	0.002	~	0.010	0.005	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

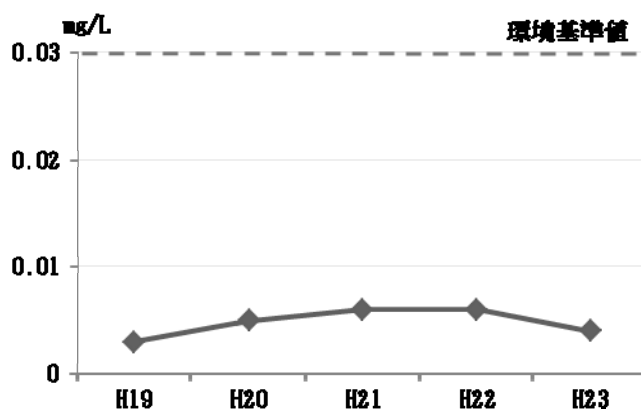


図 4 - 4 全亜鉛の状況 (音羽川)

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については28 で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については18 、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については9 である（表4 - 16 ）。

表4 - 16 水温の状況（音羽川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温（ ）			
			最高	平均	最小	N
音羽川 [C]	剣橋	H23	30.0	18.3	8.5	12
		H22	28.2	18.1	9.0	12
		H21	26.0	17.9	8.3	12
		H20	28.7	18.0	11.3	12
		H19	26.0	17.3	9.8	12
		平均	27.8	17.9	9.4	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、河口部においては砂で構成されている部分もあるが、主に石または礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、多くの落差工や取水堰が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

音羽川	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類（生物B）

音羽川	ウグイ、オイカワ、フナ類、コイ、ドジョウ、ウナギ、ボラ、スジエビ、テナガエビ、モクズガニ
-----	--

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類は放流されていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況に関する情報は得られなかった。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物 A 及び生物 B の魚介類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

4 - 5 佐奈川

1 水域の概況

佐奈川は、豊川市北部の山中に源を発し、南方へ流下し三河湾に注ぐ、河川延長約 14km、流域面積約 15km²の二級河川である（県知事が管理）。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 4 - 17 のとおりである。

表 4 - 17 環境基準類型指定状況（佐奈川）

水域名	区間	類型	環境基準点
佐奈川	全域	D	柳橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD（75%値）は、全ての地点で環境基準を達成しており、2 mg/L 程度で推移している（表 4 - 18）。

表 4 - 18(1) 近年の水質の状況（佐奈川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)				基準値	pH		基準値
			最小	最大	平均	75%値		最小	最大	
佐奈川 [D]	荒古橋	H23	0.5	2.4	1.2	1.5	8以下	6.9	7.4	6.0 ~ 8.5
		H22	< 0.5	2.8	1.4	1.5		7.0	8.1	
		H21	< 0.5	4.3	1.2	1.2		7.0	8.2	
		H20	< 0.5	5.6	2.0	2.0		6.9	7.8	
		H19	< 0.5	3.3	1.8	2.2		6.8	7.8	
		平均	0.5	3.7	1.5	1.7		6.9	7.9	
	柳橋	H23	0.5	3.9	1.7	1.6		6.8	8.7	
		H22	0.6	4.2	2.1	2.4		6.5	8.2	
		H21	0.6	6.8	2.0	2.0		6.7	8.9	
		H20	0.8	13	3.0	2.4		6.4	7.9	
		H19	0.9	15	4.2	3.5		6.4	8.8	
		平均	0.7	8.6	2.6	2.4		6.6	8.5	
	浜田橋	H23	0.6	1.9	1.2	1.4		6.9	7.4	
		H22	0.6	5.1	1.5	1.4		7.0	7.4	
		H21	0.9	2.2	1.4	1.7		6.9	8.6	
		H20	< 0.5	4.3	1.5	1.6		6.5	7.3	
		H19	1.5	12	3.8	3.0		6.5	7.4	
		平均	0.8	5.1	1.9	1.8		6.8	7.6	

表 4 - 1 8 (2) 近年の水質の状況 (佐奈川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)		
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均
佐奈川 [D]	荒古橋	H23	8.2	~	11	9.7	<1	~	10	3	-	-	-
		H22	7.5	~	11	9.6	<1	~	16	3	-	-	-
		H21	6.0	~	12	8.1	<1	~	31	5	-	-	-
		H20	7.9	~	11	9.4	<1	~	7	3	-	-	-
		H19	7.7	~	12	9.6	<1	~	16	4	-	-	-
		平均	7.5	~	11	9.3	<1	~	16	4	-	-	-
	柳橋	H23	4.8	~	12	9.8	1	~	7	3	-	-	-
		H22	7.2	~	12	9.9	<1	~	54	8	-	-	-
		H21	8.0	~	12	10	<1	~	34	5	-	-	-
		H20	8.0	~	12	9.6	1	~	42	6	-	-	-
		H19	6.6	~	14	10	1	~	5	3	-	-	-
		平均	6.9	~	12	9.9	1	~	28	5	-	-	-
	浜田橋	H23	6.5	~	11	8.3	1	~	7	4	-	-	-
		H22	5.9	~	9.5	8.4	3	~	8	5	-	-	-
		H21	6.0	~	12	9.4	2	~	10	6	-	-	-
		H20	5.7	~	9.8	7.8	<1	~	8	3	-	-	-
		H19	5.3	~	10	9.7	<1	~	8	4	-	-	-
		平均	5.9	~	10	8.7	2	~	8	4	-	-	-

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を柳橋では平成 19 年度、平成 21 年度、平成 22 年度及び平成 23 年度に上回っていたが、それ以外は下回っていた (表 4 - 1 9)。

表 4 - 1 9 全亜鉛の状況 (佐奈川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	最大	平均	N	
佐奈川 [D]	柳橋	H23	0.011	~	0.16	0.055	12
		H22	0.009	~	0.080	0.041	12
		H21	0.017	~	0.096	0.046	12
		H20	0.012	~	0.047	0.027	4
		H19	0.021	~	0.038	0.032	4
		平均	0.014	~	0.084	0.040	-
	浜田橋	H23	0.004	~	0.041	0.022	4
		H22	0.006	~	0.045	0.019	4
		H21	0.002	~	0.021	0.013	4
		H20	0.001	~	0.007	0.003	4
		H19	0.007	~	0.019	0.015	4
		平均	0.004	~	0.027	0.014	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

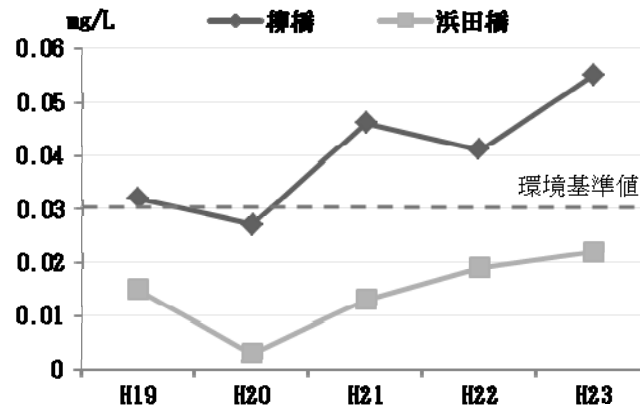


図 4 - 5 全亜鉛の状況 (佐奈川)

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 26～28 程度で、各年度の平均水温の最近 5 年間の平均値については 16～19 程度、各年度の最低水温の最近 5 年間の平均値については 4～11 程度である (表 4 - 20)。

表 4 - 20 水温の状況 (佐奈川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
佐奈川 [D]	荒古橋	H23	29.0	17.2	3.0	12
		H22	26.0	15.3	2.5	12
		H21	24.3	15.8	1.9	12
		H20	26.6	15.7	6.5	12
		H19	25.5	15.0	4.0	12
		平均	26.3	15.8	3.6	-
		H23	31.6	19.2	9.0	12
	柳橋	H22	26.5	19.1	11.5	12
		H21	25.5	19.7	10.8	12
		H20	30.4	19.8	11.0	12
		H19	27.2	19.4	12.5	12
		平均	28.2	19.4	11.0	-
		H23	28.0	17.7	5.4	12
	浜田橋	H22	29.0	17.9	5.6	12
		H21	26.6	17.3	6.0	12
		H20	29.2	18.5	6.0	12
		H19	27.7	19.1	8.6	12
		平均	28.1	18.1	6.3	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に礫または砂で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、多くの落差工や護床工が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

佐奈川	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類（生物B）

佐奈川	オイカワ、フナ類、ナマズ、スジエビ、モクズガニ
-----	-------------------------

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はしていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、赤塚山公園ぎょぎょランドからヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

・佐奈川には、アマゴは生育していない。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

4 - 6 梅田川

1 水域の概況

梅田川は、豊橋市東部に源を発し、西方へ流下し三河湾に注ぐ、河川延長約 14km、流域面積約 87km²の二級河川である（県知事が管理）。

2 水質

（1）水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 4 - 2 1 のとおりである。

表 4 - 2 1 環境基準類型指定状況（梅田川）

水域名	区間	類型	環境基準点
梅田川	全域	C	御厩橋

（2）水質汚濁の状況

BOD（75%値）は、飛越橋で平成 19、20、22、23 年度に環境基準を達成しておらず、3～6 mg/L 程度で推移している（表 4 - 2 2）。

表 4 - 2 2 (1) 近年の水質の状況 (梅田川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)				pH			
			最小	最大	平均	75%値	基準値	最小	最大	基準値
梅田川 [C]	飛越橋	H23	1.9	13	4.8	5.9	5以下	7.0	7.7	6.5 ~ 8.5
		H22	1.1	7.6	4.9	6.7		7.0	7.7	
		H21	1.6	12	4.5	4.7		7.0	7.8	
		H20	2.6	19	6.7	8.0		6.8	7.7	
		H19	< 0.5	10	4.9	5.1		6.9	8.1	
		平均	1.5	12	5.2	6.1		6.9	7.8	
	沢渡橋	H23	1.1	8.6	3.3	4.0		7.0	7.4	
		H22	1.6	5.0	2.8	2.9		6.8	7.3	
		H21	1.4	7.2	3.2	4.3		6.9	7.3	
		H20	1.3	8.3	3.9	4.5		6.8	7.3	
		H19	1.2	6.8	3.1	4.3		6.5	7.5	
		平均	1.3	7.2	3.3	4.0		6.8	7.4	
	御厩橋	H23	1.8	7.1	3.3	4.0		7.1	8.0	
		H22	0.6	8.1	2.9	3.5		7.0	8.1	
		H21	1.1	7.1	3.3	3.7		7.1	8.4	
		H20	0.9	5.6	3.5	4.6		6.9	8.2	
		H19	< 0.5	6.1	2.7	3.1		6.9	8.3	
		平均	1.0	6.8	3.1	3.8		7.0	8.2	
	植田橋	H23	0.5	15	3.8	3.4		7.1	7.7	
		H22	0.9	17	3.1	2.0		6.9	7.9	
		H21	0.6	8.0	2.4	2.3		6.9	7.8	
		H20	1.2	4.5	2.5	3.1		6.9	7.9	
		H19	1.1	8.1	2.6	2.5		6.9	8.8	
		平均	0.9	11	2.9	2.7		6.9	8.0	

表 4 - 2 2 (2) 近年の水質の状況 (梅田川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)			
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
梅田川 [C]	飛越橋	H23	3.0	10	8.3	5以上	2	7	5	50以下	-	-	-	
		H22	7.5	11	9.2		1	14	5		-	-		
		H21	5.3	10	8.5		2	9	5		-	-		
		H20	4.3	10	8.7		3	13	6		-	-		
		H19	5.8	11	8.5		<1	10	5		-	-		
		平均	5.2	10	8.6		2	11	5		-	-		
	沢渡橋	H23	7.5	12	9.1		3	10	5		-	-		
		H22	8.7	12	9.7		2	5	3		-	-		
		H21	6.9	10	8.7		2	11	5		-	-		
		H20	7.2	11	9.1		2	7	4		-	-		
		H19	6.7	12	8.7		3	18	6		-	-		
		平均	7.4	11	9.1		2	10	5		-	-		
	御厩橋	H23	3.1	12	9.2		1	9	5		-	-		
		H22	8.0	13	10		1	10	5		-	-		
		H21	5.5	13	9.7		1	9	5		-	-		
		H20	5.6	12	9.7		1	7	4		-	-		
		H19	6.1	12	9.7		<1	14	6		-	-		
		平均	5.7	12	9.7		1	10	5		-	-		
	植田橋	H23	3.7	10	6.6		2	24	9		-	-		
		H22	3.6	10	6.7		2	17	7		-	-		
		H21	5.0	10	7.0		2	14	7		-	-		
		H20	5.0	10	7.2		2	13	7		-	-		
		H19	3.4	17	7.3		3	16	9		-	-		
		平均	4.1	11	7.0		2	17	8		-	-		

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03 mg/L 以下）を沢渡橋では平成 19 年度に上回っていたが、それ以外は下回っていた（表 4 - 23）。

表 4 - 23 全亜鉛の状況（梅田川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	~	最大	平均	N
梅田川 [C]	飛越橋	H23	0.010	~	0.020	0.015	4
		H22	0.013	~	0.016	0.015	4
		H21	0.010	~	0.022	0.018	4
		H20	0.002	~	0.003	0.003	4
		H19	0.009	~	0.028	0.019	4
		平均	0.009	~	0.018	0.014	-
	沢渡橋	H23	0.009	~	0.047	0.030	4
		H22	0.013	~	0.071	0.030	4
		H21	0.012	~	0.028	0.018	4
		H20	0.011	~	0.040	0.022	4
		H19	0.014	~	0.069	0.039	4
		平均	0.012	~	0.051	0.028	-
	御厩橋	H23	0.013	~	0.058	0.024	12
		H22	0.005	~	0.021	0.013	12
		H21	0.006	~	0.069	0.021	12
		H20	0.002	~	0.004	0.003	4
		H19	0.009	~	0.034	0.021	4
		平均	0.007	~	0.037	0.016	-
	植田橋	H23	0.009	~	0.023	0.015	4
		H22	0.005	~	0.037	0.021	4
		H21	0.007	~	0.018	0.011	4
		H20	0.002	~	0.004	0.004	4
		H19	0.011	~	0.029	0.019	4
		平均	0.007	~	0.022	0.014	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

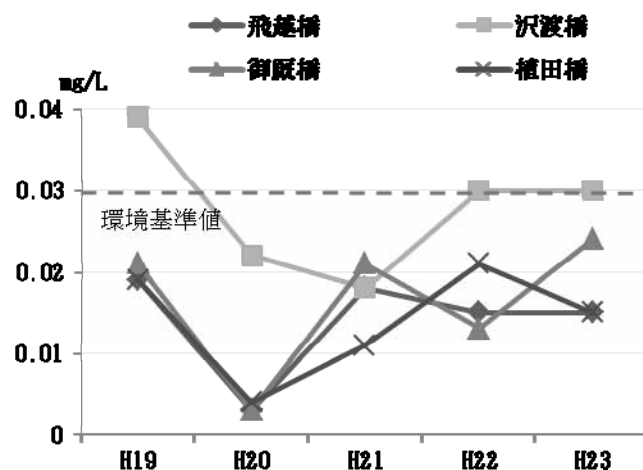


図 4 - 6 全亜鉛の状況 (梅田川)

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 28 ~ 30 程度で、各年度の平均水温の最近 5 年間の平均値については 18 ~ 19 程度、各年度の最低水温の最近 5 年間の平均値については 5 ~ 8 程度である (表 4 - 24)。

表 4 - 2 4 水温の状況（梅田川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
梅田川 [C]	飛越橋	H23	27.5	17.2	5.1	12
		H22	29.1	17.6	6.0	12
		H21	26.5	16.8	5.3	12
		H20	28.2	17.7	6.7	12
		H19	26.9	18.2	7.2	12
		平均	27.6	17.5	6.1	-
	沢渡橋	H23	29.4	17.8	3.2	12
		H22	28.6	18.0	5.9	12
		H21	26.8	17.3	5.1	12
		H20	29.4	18.4	7.2	12
		H19	27.2	18.9	7.4	12
		平均	28.3	18.1	5.8	-
	御厩橋	H23	29.3	17.0	3.5	12
		H22	28.5	17.2	4.5	12
		H21	27.0	17.4	4.1	12
		H20	30.0	17.8	5.0	12
		H19	26.9	18.0	6.8	12
		平均	28.3	17.5	4.8	-
	植田橋	H23	30.5	19.0	7.2	12
		H22	29.2	18.9	8.3	12
		H21	29.2	19.2	5.5	12
		H20	32.0	19.2	8.5	12
		H19	30.0	18.4	8.9	12
		平均	30.2	18.9	7.7	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に砂や礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、多くの落差工や堰が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

梅田川	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類（生物B）

梅田川	オイカワ、フナ類、コイ、ドジョウ、ナマズ、トウヨシノボリ、ウナギ、ボラ、テナガエビ
-----	---

（2）その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はしていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況に関する情報は得られなかった。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

4 - 7 汐川

1 水域の概況

汐川は、田原市南西に源を発し、北東へ流下し三河湾へ注ぐ、河川延長約 9 km、流域面積約 37km²の二級河川である（県知事が管理）。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 4 - 2 5 のとおりである。

表 4 - 2 5 環境基準類型指定状況（汐川）

水域名	区間	類型	環境基準点
汐川	全域	E	船倉橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD（75%値）は、環境基準を達成しており、3 mg/L 程度で推移している（表 4 - 2 6）。

表 4 - 2 6 (1) 近年の水質の状況（汐川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)					pH		
			最小	最大	平均	75%値	基準値	最小	最大	基準値
汐川 [E]	船倉橋	H23	0.9	3.9	2.4	2.6	10以下	6.6	7.4	6.0 ~ 8.5
		H22	1.0	8.1	3.0	3.4		6.7	8.1	
		H21	1.1	7.8	2.8	3.0		6.9	7.5	
		H20	0.9	3.5	2.0	2.5		6.8	7.5	
		H19	1.4	19	5.3	3.9		6.8	7.2	
		平均	1.1	8.5	3.1	3.1		6.8	7.5	

表 4 - 2 6 (2) 近年の水質の状況（汐川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)				SS (mg/L)				大腸菌群数 (MPN/100mL)			
			最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
汐川 [E]	船倉橋	H23	3.3	10	7.0	2以上	5	82	32	ごみ等 の浮遊 が認め られな いこ と。	-	-	-	
		H22	4.1	10	7.7		6	130	47		-	-		
		H21	6.5	10	7.8		4	110	38		-	-		
		H20	4.2	9.8	7.7		12	87	37		-	-		
		H19	5.3	9.4	7.1		7	140	41		-	-		
		平均	4.7	9.8	7.5		7	110	39		-	-		

備考 「-」は、調査を実施していないことを示す。

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」、「生物B」の環境基準値（0.03 mg/L 以下）を下回っていた（表4-27）。

表4-27 全亜鉛の状況（汐川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)				
			最小	～	最大	平均	N
汐川 [E]	船倉橋	H23	0.007	～	0.028	0.014	12
		H22	0.008	～	0.036	0.022	12
		H21	0.010	～	0.034	0.019	12
		H20	0.006	～	0.018	0.012	4
		H19	0.007	～	0.033	0.014	4
		平均	0.008	～	0.030	0.016	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

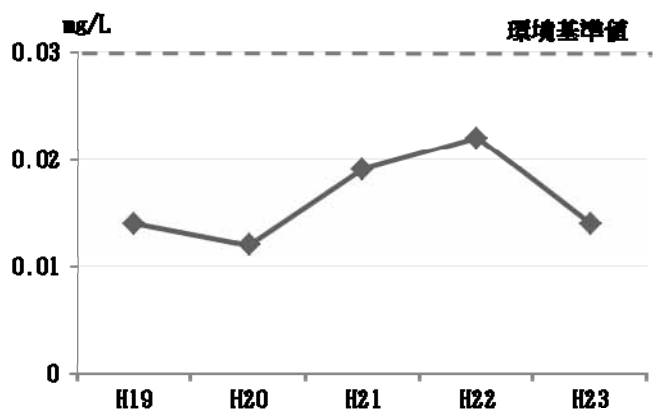


図4-7 全亜鉛の状況（汐川）

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については27℃で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については18℃、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については8℃である（表4-28）。

表 4 - 2 8 水温の状況（汐川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最小	N
汐川 [E]	船倉橋	H23	25.3	17.8	8.5	12
		H22	29.0	17.5	9.2	12
		H21	25.5	18.0	6.4	12
		H20	28.0	18.5	9.0	12
		H19	27.8	19.3	8.8	12
		平均	27.1	18.2	8.4	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に礫や砂、河口部においては泥で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、大きな河川構造物は設置されていない。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

汐川	確認されていない
----	----------

温水性の魚介類（生物B）

汐川	オイカワ、フナ類、ドジョウ、トウヨシノボリ、ウナギ、ボラ、スジエビ、テナガエビ
----	---

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はしていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況について、赤塚山公園ぎょぎょランドからヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

・汐川には、アマゴは生育していない。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物 A 及び生物 B の魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

5 天竜川水域

5 - 1 大千瀬川

1 水域の概況

大千瀬川は、北設楽郡東栄町の山中に源を発し、東方へ流下し県境を越えて静岡県浜松市天竜区浦河付近で天竜川本川へ合流する、河川延長約 21m、流域面積約 272km²の一級河川である（県知事が管理）。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 5 - 1 のとおりである。

表 5 - 1 環境基準類型指定状況（大千瀬川）

水域名	区間	類型	環境基準点
大千瀬川	静岡県境より上流	AA	常盤橋

(2) 水質汚濁の状況

BOD（75%値）は、環境基準を達成しており、1 mg/L 以下で推移している（表 5 - 2）。

表 5 - 2 (1) 近年の水質の状況（大千瀬川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/L)				基準値	pH		基準値		
			最小	～	最大	平均		75%値	最小		～	最大
大千瀬川 [AA]	御殿橋	H23	< 0.5	～	< 0.5	< 0.5	< 0.5	7.0	～	7.7	6.5 ～ 8.5	
		H22	< 0.5	～	0.6	0.5	< 0.5	6.8	～	7.9		
		H21	< 0.5	～	0.5	0.5	< 0.5	7.2	～	8.0		
		H20	< 0.5	～	0.8	0.6	0.5	7.4	～	8.0		
		H19	< 0.5	～	1.2	0.6	0.6	7.2	～	8.0		
		平均	0.5	～	0.7	0.5	0.5	7.1	～	7.9		
	常盤橋	H23	< 0.5	～	< 0.5	< 0.5	< 0.5	7.0	～	7.7		
		H22	< 0.5	～	0.7	0.5	< 0.5	6.9	～	8.3		
		H21	< 0.5	～	0.5	0.5	< 0.5	7.3	～	8.3		
		H20	< 0.5	～	0.6	0.5	< 0.5	6.7	～	7.2		
		H19	< 0.5	～	0.9	0.6	0.5	6.6	～	8.0		
		平均	0.5	～	0.6	0.5	0.5	6.9	～	7.9		
		1以下										

表 5 - 2 (2) 近年の水質の状況 (大千瀬川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/L)			SS (mg/L)			大腸菌群数 (MPN/100mL)		
			最小 ~ 最大	平均	基準値	最小 ~ 最大	平均	基準値	最小 ~ 最大	平均	基準値
大千瀬川 [AA]	御殿橋	H23	8.4 ~ 13	10	7.5以上	<1 ~ 1	1	25以下	14 ~ 7900	1600	50以下
		H22	8.5 ~ 13	10		<1 ~ 1	1		32 ~ 2200	670	
		H21	6.4 ~ 11	8.7		<1 ~ 1	1		33 ~ 2400	890	
		H20	8.7 ~ 14	10		<1 ~ 7	2		13 ~ 2400	500	
		H19	8.8 ~ 13	11		<1 ~ <1	<1		79 ~ 23000	5600	
		平均	8.2 ~ 13	9.9		<1 ~ 3	1		34 ~ 7580	1852	
	常盤橋	H23	8.8 ~ 13	10		<1 ~ 1	1		46 ~ 22000	3300	
		H22	8.1 ~ 13	10		<1 ~ 2	1		17 ~ 3300	710	
		H21	6.3 ~ 11	8.7		<1 ~ 2	1		63 ~ 2900	1100	
		H20	8.8 ~ 13	11		<1 ~ 3	1		20 ~ 54000	5500	
		H19	8.6 ~ 13	11		<1 ~ 1	1		18 ~ 3300	840	
		平均	8.1 ~ 13	10		<1 ~ 2	1		33 ~ 17100	2290	

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛は、「生物A」・「生物B」の環境基準値 (0.03 mg/L 以下) を下回っていた (表 5 - 3)。

表 5 - 3 全亜鉛の状況 (大千瀬川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)			
			最小	~ 最大	平均	N
大千瀬川 [AA]	常盤橋	H23	< 0.001	~ 0.004	0.002	12
		H22	< 0.001	~ 0.018	0.005	12
		H21	0.001	~ 0.006	0.003	12
		H20	< 0.001	~ 0.005	0.003	4
		H19	< 0.001	~ 0.001	0.001	4
		平均	0.001	~ 0.007	0.003	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

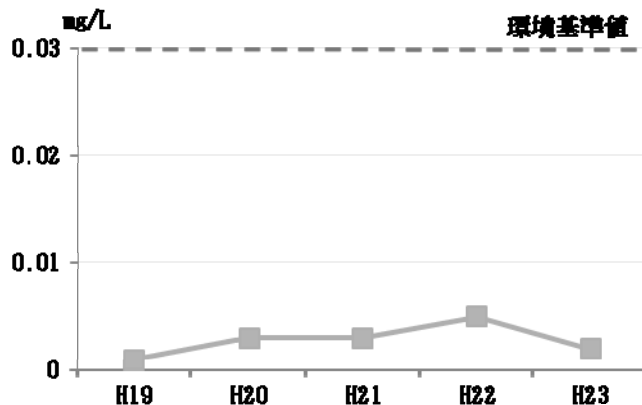


図 5 - 1 全亜鉛の状況 (大千瀬川)

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については23～24程度で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については13程度、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については2～3程度である（表5-4）。

表5-4 水温の状況（大千瀬川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	水温（ ）			
			最高	平均	最小	N
大千瀬川 [AA]	御殿橋	H23	20.0	12.5	2.5	12
		H22	24.0	13.0	2.0	12
		H21	22.1	12.8	3.2	12
		H20	24.0	13.3	2.4	12
		H19	22.5	12.6	3.0	12
		平均	22.5	12.8	2.6	-
	常盤橋	H23	22.5	13.2	2.0	12
		H22	26.5	13.5	2.0	12
		H21	23.8	13.6	3.5	12
		H20	23.5	13.3	2.1	12
		H19	24.3	13.5	2.5	12
		平均	24.1	13.4	2.4	-

備考 「N」は、測定回数を示す。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に下流側は岩盤または石、上流側は石で構成されている。

(2) 主な河川構造物

主な河川構造物について、振草頭首工が設置されており、魚道も設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

大千瀬川	アマゴ（御殿橋）
------	----------

温水性の魚介類（生物B）

大千瀬川	ウグイ、オイカワ、コイ、ドジョウ
------	------------------

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

大千瀬川全域で漁業権(アユ、アマゴ、オイカワ、ウナギ)が設定されている。

魚類放流場所

振草川漁業協同組合がアユとウナギを大千瀬川全域に放流している(支川でアマゴを放流)。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

大千瀬川における魚類の生息状況について、振草川漁業協同組合、赤塚山公園ぎょぎょランド、愛知県水産試験場内水面漁業研究所からヒアリングを行った結果の概要は、以下のとおりである。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・アマゴは大千瀬川全域に生息しており、再生産している。・漁獲対象種はアマゴ、ウナギ、コイ、オイカワ、アユなど。 |
|--|

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚介類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。